Sun N1 Service Provisioning System 5.1 コマンド行インタフェース(CLI) リファレンスマニュアル

Sun Microsystems, Inc.
4150 Network Circle
Santa Clara, CA 95054
U.S.A.

Part No: 819–4222–10
2005 年 9 月

Copyright 2005 Sun Microsystems, Inc. 4150 Network Circle, Santa Clara, CA 95054 U.S.A. All rights reserved.

本製品およびそれに関連する文書は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社の書面による事前の許可なく、本製品および関連する文書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company, Ltd. が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。フォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

U.S. Government Rights Commercial software. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

本製品に含まれる HG-MinchoL、HG-MinchoL-Sun、HG-PMinchoL-Sun、HG-GothicB、HG-GothicB-Sun、および HG-PGothicB-Sun は、株式会社リコーがリョービイマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。 HeiseiMin-W3H は、株式会社リコーが財団法人日本規格協会からライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun、Sun Microsystems、docs.sun.com、AnswerBook、AnswerBook2 は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) の商標、登録商標もしくは、サービスマークです。

サンのロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャーに基づくものです。

OPENLOOK、OpenBoot、JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

Wnn は、京都大学、株式会社アステック、オムロン株式会社で共同開発されたソフトウェアです。

Wnn6 は、オムロン株式会社、オムロンソフトウェア株式会社で共同開発されたソフトウェアです。©Copyright OMRON Co., Ltd. 1995-2000. All Rights Reserved. ©Copyright OMRON SOFTWARE Co.,Ltd. 1995-2002 All Rights Reserved.

「ATOK」は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。

「ATOK Server/ATOK12」は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、「ATOK Server/ATOK12」にかかる著作権その他の権利は、株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

「ATOK Server/ATOK12」に含まれる郵便番号辞書 (7 桁/5 桁) は日本郵政公社が公開したデータを元に制作された物です (一部データの加工を行なっています)。

「ATOK Server/ATOK12」に含まれるフェイスマーク辞書は、株式会社ビレッジセンターの許諾のもと、同社が発行する『インターネット・パソコン通信フェイスマークガイド』に添付のものを使用しています。

Unicode は、Unicode, Inc. の商標です。

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPEN LOOK および Sun Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザーインタフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。 米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは、OPEN LOOK のグラフィカル・ユーザーインタフェースを実装するか、またはその他の方法で米国 Sun Microsystems 社との書面によるライセンス契約を遵守する、米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われないものとします。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法 (外為法) に定められる戦略物資等 (貨物または役務) に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

原典: Sun N1 Service Provisioning System 5.1 Command-Line Interface Reference Manual

Part No: 819-1660–10

Revision A

Adobe PostScript

051017@13215

目次

はじめに　**11**

1　コマンド行インタフェースの使用　**15**
CLI コマンドの構造　16
　NM: を使った ID 置換　18
CLI の入力と出力　19
　出力をファイルへリダイレクト　19
　ファイルからの入力の読み取り　19
　ファイルからの CLI 引数の読み取り　20
CLI コマンドの出力書式　20
　出力書式の変更　21
コマンド行インタフェースの実行　22
　▼ 単一コマンド CLI を実行する　22
　▼ CLI Jython インタプリタを実行する　22
コマンド行ヘルプの利用　23
　CLI コマンドの一覧　23

2　**cat:** カテゴリを管理するコマンド　**25**
cat コマンドの概要　25
　cat.add　25
　cat.del　26
　cat.mod　26
　cat.la　26

3 cdb: コンポーネントを管理する **CLI** コマンド **29**
cdb コマンドの概要 29
cdb.c: コンポーネントの管理 30
cdb.c.ci 31
cdb.c.co 31
cdb.c.la 32
cdb.c.lo 32
cdb.c.lv 33
cdb.c.mod 33
cdb.c.mv 34
cdb.c.sc 34
cdb.c.sc 35
cdb.c.del 35
cdb.ic: インストール済みコンポーネントの管理 36
cdb.ic.lbc 36
cdb.ic.lbh 36
cdb.ic.vs.lo 37
cdb.vs: 変数設定の管理 37
cdb.vs.add 38
cdb.vs.del 38
cdb.vs.imp 38
cdb.vs.la 39
cdb.vs.lo 39
cdb.vs.mod 39
cdb.ssr: システムサービス ref コマンド 40
cdb.ssr.add 40
cdb.ssr.mod 41
cdb.ssr.del 42
cdb.ssr.lo 42
cdb.ssr.la 42
cdb.ctr:コンポーネントタイプコマンド 42
cdb.ctr.add 43
cdb.ctr.mod 43
cdb.ctr.del 44
cdb.ctr.lo 44
cdb.ctr.la 45
cdb.rsrc: コンポーネントの管理 45
cdb.rsrc.ci 46

cdb.rsrc.cib 48
cdb.rsrc.co 53
cdb.rsrc.gd 54
cdb.rsrc.rci 54
cdb.rsrc.showopts 55
cdb.cj: チェックインジョブの管理 55
cdb.cj.la 55
cdb.cj.lo 56
cdb.cj.stop 56

4 cfg: 構成を生成する CLI コマンド 59
cfg コマンドの概要 59
cfg.gen 59

5 cmp: 比較を実行する CLI コマンド 61
cmp コマンドの概要 61
cmp.dj.add 62
cmp.dj.del 62
cmp.dj.la 62
cmp.dj.lo 62
cmp.ds.add 63
cmp.ds.la 64
cmp.ds.lo 65
cmp.ds.del 65
cmp.ds.mod 65
cmp.ds.sc 67

6 fdb: フォルダを管理する CLI コマンド 69
fdb コマンドの概要 69
fdb.f.add 69
fdb.f.mod 70
fdb.f.mv 70
fdb.f.del 71
fdb.f.la 71
fdb.f.lo 71
fdb.f.co 72
fdb.f.mp 72

7 hdb: ホストを管理する **CLI** コマンド **75**
概要 75
hdb.a: アプリケーションインスタンスの管理 76
hdb.a.add 76
hdb.a.del 77
hdb.a.la 78
hdb.a.lo 78
hdb.a.mod 78
hdb.a.clear 79
hdb.h: ホストの管理 80
hdb.h.add 80
hdb.h.del 81
hdb.h.la 82
hdb.h.lo 82
hdb.h.lq 82
hdb.h.mod 83
hdb.hr: ホスト検索の管理 84
概要 84
hdb.hr.add 84
hdb.hr.del 85
hdb.hr.la 85
hdb.hr.le 85
hdb.hr.lo 86
hdb.hr.mod 86
hdb.hs: ホストセットの管理 87
hdb.hs.add 87
hdb.hs.del 88
hdb.hs.la 88
hdb.hs.le 88
hdb.hs.lo 89
hdb.hs.mod 89
hdb.ht: ホストタイプの管理 90
概要 90
hdb.ht.add 90
hdb.ht.del 91
hdb.ht.la 91
hdb.ht.lo 91
hdb.ht.mod 91

8 **net:** ネットワーク操作を実行する **CLI** コマンド **93**
net コマンドの概要 93
net.gencfg 93
net.ping 94
net.traceroute 94

9 **pdb:** プランを管理する **CLI** コマンド **97**
pdb コマンドの概要 97
pdb.p.ci 98
pdb.p.co 98
pdb.p.genplan 98
pdb.p.la 99
pdb.p.lo 99
pdb.p.del 100
pdb.p.lv 100
pdb.p.mv 100
pdb.p.sh 100
pdb.p.sc 101

10 **pe:** プランを実行する **CLI** コマンド **103**
pe コマンドの概要 103
pe.h.prep 104
pe.p.en 104
pe.p.la 104
pe.p.lo 105
pe.p.del 105
pe.p.lp 105
pe.p.run 106
pe.p.stop 109
pe.pi.lo 109

11 **plg:** プラグインの **CLI** コマンド **111**
plg コマンドの概要 111
plg.p.add 111
plg.p.del 112
plg.p.la 112
plg.p.lo 112

plg.p.mod 112

12 rule: 通知のための **CLI** コマンド **115**
rule コマンドの概要 115
rule.add 115
rule.del 117
rule.la 117
rule.lo 117
rule.mod 117

13 udb: ユーザーとグループを管理する **CLI** コマンド **119**
udb コマンドの概要 119
udb.g: ユーザーグループの管理 120
udb.g.add 120
udb.g.del 121
udb.g.la 122
udb.g.lo 122
udb.g.lp 122
udb.g.lu 122
udb.g.mod 123
udb.u: ユーザーアカウントの管理 124
udb.u.add 125
udb.u.cp 125
udb.u.la 126
udb.u.lo 126
udb.u.lp 126
udb.u.mod 127
udb.sv: セッション変数の管理 128
udb.sv.add 128
udb.sv.del 129
udb.sv.fl 129
udb.sv.la 129
udb.sv.lo 130
udb.sv.mod 130
udb.sv.re 130
認証コマンド 131
udb.login 131

udb.logout 132
udb.whoami 132
udb.p: アクセス許可を管理するためのコマンド 132
udb.p.la 133
udb.p.lo 133
udb.l: ログイン構成の管理 133
udb.l.la 133

14 `util`: その他の CLI コマンド 135
`util` コマンドの概要 135
`util.msv` 135
`util.reformat` 136
`util.xfm` 136

A 入力タイプ 139

はじめに

『Sun N1 Service Provisioning System 5.1 コマンド行インタフェース (CLI) リファレンスマニュアル』では、Sun N1 Service Provisioning System ソフトウェアでホスト、ユーザー、コンポーネント、プランを管理するためのコマンドについて説明します。

対象読者

このマニュアルは、Sun N1™ Service Provisioning System を使ってホストやユーザーを管理するユーザーや、アプリケーションをデータセンターにインストールし、管理するユーザーを対象に書かれています。

このマニュアルの構成

このマニュアルでは、コマンド行インタフェースの概要を紹介したあと、いくつかの章に分けて、プロビジョニングソフトウェアの管理コマンドについて説明します。巻末には、付録として、入力タイプの書式の説明が付属しています。

関連マニュアル

Sun N1 Service Provisioning System のマニュアルセットは、以下のマニュアルで構成されています。

- Sun N1 Service Provisioning System 5.1 リリースノート

- Sun N1 Service Provisioning System 5.1 インストールガイド
- Sun N1 Service Provisioning System 5.1 システム管理者ガイド
- Sun N1 Service Provisioning System 5.1 オペレーションとプロビジョニングガイド
- Sun N1 Service Provisioning System 5.1 プランとコンポーネントの開発者ガイド
- Sun N1 Service Provisioning System 5.1 XML スキーマリファレンスガイド
- Sun N1 Service Provisioning System 5.1 Plug-In Developer's Guide

マニュアル、サポート、およびトレーニング

Sun のサービス	**URL**	内容
マニュアル	`http://jp.sun.com/documentation/`	PDF 文書および HTML 文書をダウンロードできます。
サポートおよびトレーニング	`http://jp.sun.com/supportraining/`	技術サポート、パッチのダウンロード、および Sun のトレーニングコース情報を提供します。

表記上の規則

このマニュアルでは、次のような字体や記号を特別な意味を持つものとして使用します。

表 **P–1** 表記上の規則

字体または記号	意味	例
`AaBbCc123`	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、画面上のコンピュータ出力、コード例を示します。	`.login` ファイルを編集します。 `ls -a` を使用してすべてのファイルを表示します。 `system%`
`AaBbCc123`	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力と区別して示します。	`system%` **`su`** `password:`

表 **P–1** 表記上の規則　　*(続き)*

字体または記号	意味	例
AaBbCc123	変数を示します。実際に使用する特定の名前または値で置き換えます。	ファイルを削除するには、`rm` *filename* と入力します。
『 』	参照する書名を示します。	『コードマネージャー・ユーザーズガイド』を参照してください。
「 」	参照する章、節、ボタンやメニュー名、強調する単語を示します。	第 5 章「衝突の回避」を参照してください。 この操作ができるのは、「スーパーユーザー」だけです。
\	枠で囲まれたコード例で、テキストがページ行幅を超える場合に、継続を示します。	`sun% grep '^#define \` `XV_VERSION_STRING'`

コード例は次のように表示されます。

- C シェル

  `machine_name% command y|n [filename]`

- C シェルのスーパーユーザー

  `machine_name# command y|n [filename]`

- Bourne シェルおよび Korn シェル

  `$ command y|n [filename]`

- Bourne シェルおよび Korn シェルのスーパーユーザー

  `# command y|n [filename]`

[ ] は省略可能な項目を示します。上記の例は、*filename* は省略してもよいことを示しています。

| は区切り文字 (セパレータ) です。この文字で分割されている引数のうち 1 つだけを指定します。

キーボードのキー名は英文で、頭文字を大文字で示します (例: `Shift` キーを押します)。ただし、キーボードによっては `Enter` キーが `Return` キーの動作をします。

ダッシュ (-) は 2 つのキーを同時に押すことを示します。たとえば、`Ctrl-D` は `Control` キーを押したまま `D` キーを押すことを意味します。

第 1 章

コマンド行インタフェースの使用

この章では、Sun N1 Service Provisioning System ソフトウェアのコマンド行インタフェース (CLI) について説明します。この CLI を使って、サーバーからマスターサーバーへコマンドを送信することができます。この CLI は、シェルプロンプト、DOS プロンプト、スクリプトのいずれかを使って実行できます。ブラウザインタフェースの代わりに CLI を使ってマスターサーバーにアクセスすることもできます。CLI を使用するためには、まずローカルサーバーに Command-Line Interface Client をインストールする必要があります。

CLI は、次のいずれかのモードで実行されます。

- 単一行モード – このモードでは、完全なコマンドを入力する必要があります。足りない情報があっても、その情報の入力を求めるプロンプトは表示されません。
- 対話モード – このモードでは、1 個以上のコマンドを実行できるログインセッションがスタートします。この方法でログインセッションを始めた場合、ユーザー認証は 1 回だけで済みます。このモードは、すでにサーバーにインストールされている Jython プログラミング言語に依存しています。詳細については、『Sun N1 Service Provisioning System 5.1 インストールガイド』を参照してください。

  Jython プログラミング言語は、オブジェクト指向の Python 言語の Java™ 実装です。Command-Line Interface Client をインストールする予定のすべてのシステムに、Jython をインストールする必要があります。詳細については、`http://www.jython.org` を参照してください。

この章の内容は次のとおりです。

- 16 ページの「CLI コマンドの構造」
- 19 ページの「CLI の入力と出力」
- 20 ページの「CLI コマンドの出力書式」
- 22 ページの「コマンド行インタフェースの実行」
- 23 ページの「コマンド行ヘルプの利用」

CLI コマンドの構造

`cr_cli` コマンドの構文は次のとおりです。

`cr_cli -cmd` *command authentication-arguments* `[` *other-arguments* `]`

ほとんどのコマンドでは、認証引数として `-u` と `-p`、または `-s` を使用する必要があります。コマンドが認証引数を必要とするかどうかについては、そのコマンドの説明を参照してください。コマンド行内の認証引数の位置は決まっていませんが、必ず引数 `-cmd`、`-h`、`-o`、`-of` の後ろに挿入してください。

`-cmd` *command*

実行するコマンドの名前。

すべての CLI コマンドは、次の書式を使用する。

subsystem . object . command

たとえば、ホストをデータベースに追加するコマンドは `hdb.h.add`。

subsystem はサブシステムの名前。たとえばホストデータベースコマンドは、`hdb` で表される。

object はコマンドの影響を受けるオブジェクト。たとえばホストは、`h` で表される。

command はコマンドが実行するアクション。たとえばホストをデータベースに追加するアクション、`add` などがある

authentication-arguments

ほとんどの CLI コマンドは認証を必要とするが、ヘルプの表示や使用可能なコマンドの一覧表示には認証は不要。

`-u` *user-name*

認証に使用するユーザー名。認証を行うためには、このユーザーのパスワードも指定する必要がある。

ユーザー名とパスワードを入力する代わりに、セッション ID を指定する方法もある

`-p` *password*

`-u` で指定されたユーザーの認証に使用されるパスワード。

コマンド行に指定したパスワードは保護されていない。プロセスリストやシェルのコマンド行履歴に、このパスワードが含まれている可能性がある。したがって、パスワードを保護するには、ユーザー名とパスワードをローカル

	ファイルシステム上のファイルに保存し、コマンドへの入力としてこのファイルを参照するとよい。例 1–1 の最初の例を参照。また、ユーザーがこのファイルを所有していることと、このファイルの読み取りがこのユーザーだけに許可されていることを確認すること
`-s` *session-ID*	セッションの認証に使用されるセッション ID。 セッション ID を取得し、認証用として使用する方法については、19 ページの「ファイルからの入力の読み取り」を参照のこと。 セッション ID を入力する代わりに、引数 `-u` と `-p` を使ってユーザー名とパスワードを指定することもできる
other-arguments	*command* に関連付けられた引数と値

`cr_cli` コマンドは成功時に 0、失敗時に 1 を返します。

例 **1–1** CLI の使用

以下に、プロビジョニングソフトウェアの CLI の使用例を示します。

- ファイルからユーザー名とパスワードを読み取る例。ファイル `.terrypw` には、Terry のユーザー名とパスワードが以下のような書式で格納されています。

  ```
  -u
  terry
  -p
  securepasswd
  ```

  `hdb.h.lo` コマンドを認証する場合、Terry は次のコマンドを実行します。

  ```
  cr_cli -cmd hdb.h.lo -exp:.terrypw
  ```

  このファイルをローカルファイルシステムに格納し、ファイルのアクセス許可を設定して、このファイルへのアクセスを制限します。詳細については、20 ページの「ファイルからの CLI 引数の読み取り」を参照してください。
- ユーザー `terry` がホスト `barolo7` の情報を取得する例。このコマンドでは、コマンド行に直接パスワードを入力します。

  ```
  cr_cli -cmd hdb.h.lo -ID NM:barolo7 -u terry -p password
  ```

  この方法で指定したパスワードは保護されません。
- 文字列を引用記号で囲むことによって、空白文字を含む引数を渡す例。ユーザー `terry` が、`myWebServer` という名前のコンポーネントの説明を変更します。

例 **1–1** CLI の使用　　(続き)

```
cr_cli -cmd cdb.c.mod -comp myWebServer
  -desc "Version 3.7 of My Web Server" -u terry -p 123xyz
```

UNIX® システムでは、空白文字のエスケープ文字として、バックスラッシュ (\) を使用します。

```
cr_cli -cmd cdb.c.mod -comp myWebServer -u terry -p 123xyz
  -desc Version\ 3.7\ of\ My\ Web\ Server
```

NM: を使った ID 置換

ユーザーが作成したほとんどのオブジェクトには、ID 番号が付けられます。ID 番号は、リポジトリ内のオブジェクト (ユーザーアカウント、コンポーネントなど) を識別する一意の識別子です。

ID 番号は便利ですが、扱いにくい場合もあります。ID 番号の代わりに名前を使用する場合は、NM: 表記を使ってオブジェクト名を入力します。

サポートされている NM: マッピングの一覧は、付録 A に記載されています。

たとえば、ホスト、ユーザー名、ユーザーグループ名、ホストタイプ名などのオブジェクト ID の代わりに、次のような構文を使用することができます。

NM:*host*
NM:*user-name*
NM:*user-group-name*
NM:*host-type-name*

NM: 構文では、名前やオプションのバージョン番号を指定して、コンポーネントやプランを識別することができます。

NM:*plan-name* [:*version*]

以下に、この表記の使用例を示します。

```
NM:simplePlan
NM:simplePlan:1.0
NM:/foo/bar/simplePlan:1.1
```

バージョン番号の指定を省略した場合、最新バージョンが使用されます。

CLI の入力と出力

以下では、CLI の入力としてファイルを使用する方法と、CLI コマンドの出力をファイルに格納する方法について説明します。

出力をファイルへリダイレクト

コマンド出力をファイルにリダイレクトする場合は、`-of` 引数を使用するか、シェルリダイレクトを使用します。`-of` 引数は、ファイルの完全パスを引数として取ります。

たとえば、以下のコマンドは、出力を `hostFile` ファイルに書き込みます。`-of` 引数は `-cmd` で指定されたコマンドの直後に指定する必要があります。

```
cr_cli -cmd hdb.h.add -of hostFile -u user-name
-p password -name myhost -tID NM:system#crhost
```

コマンドの実行後、`hostFile` には、出力が `detail` 書式 (`hdb.h.add` コマンドのデフォルト出力書式) で追加されます。

出力をファイルにリダイレクトするもうひとつの例としては、格納済みのセッション ID を使用してコマンドを認証する場合があります。まずセッション ID の RPC 直列化表現を `session` という名前のファイルに保存します。この出力をファイルにリダイレクトするには、次のどちらかの方法を使用します。

- シェルリダイレクトを使ってファイルを作成する。

  ```
  cr_cli -cmd udb.login -o serialized -u user-name -p password > session
  ```

- `-of` 引数を使ってファイルを作成する。

  ```
  cr_cli -cmd udb.login -o serialized -of session -u user-name -p password
  ```

セッション ID をファイルに格納してあれば、このファイルを別のコマンドへの入力として使用できます。詳細については、19 ページの「ファイルからの入力の読み取り」を参照してください。

ファイルからの入力の読み取り

ファイルからコマンドにデータを渡すには、ファイル名に接頭辞 `file:` を追加して、ファイルを特定します。

たとえば、セッション ID が格納されているファイルがあり、このファイルを使って `hdb.h.la` コマンドを認証する場合は、コマンドへの入力としてこのファイルを使用します。

```
cr_cli -cmd hdb.h.la -s file:session
```

-o serialized 引数を使ってセッションを作成していない場合は、ser: 接頭辞を使用すれば直列化したファイルを別のコマンドに渡すことができます。

```
cr_cli -cmd hdb.h.la -s ser:session
```

ファイルからの CLI 引数の読み取り

入力ファイルから CLI 引数を読み取るには、識別のため、入力ファイルに接頭辞 exp: を付ける必要があります。まず、CLI に渡す情報をファイルに保存します。引数は、コマンドが要求する順に、1 行に 1 つずつ入力してください。

次に、ファイルに指定した引数をコマンドに渡します。

コマンド引数を指定するには、たとえば、file1.txt ファイルと file2.txt ファイルを exp: と組み合わせて使用します。

file1.txt の内容は次のとおりです。

```
hdb.h.la
-u
user-name
exp:file2.txt
```

file2.txt の内容は次のとおりです。

```
-p
password
```

この 2 つのファイルに記述されたコマンドを実行するには、次のように入力します。

```
cr_cli -cmd exp:file1.txt
```

CLI コマンドの出力書式

CLI コマンドの出力書式は調整可能です。CLI コマンドの出力書式を指定するには、-cmd で指定したコマンドの直後に -o 引数を指定します。

たとえば、hdb.h.la コマンドの出力書式として string を指定するには、次のように入力します。

```
cr_cli -cmd hdb.h.la -o string -u user-name -p password
```

すべての CLI コマンドで使用できる標準出力書式は次のとおりです。

raw	コマンドごとに、結果の内部文字列表現を生成する
string	簡潔な出力を生成する
serialized	XML 直列化テキスト出力を生成する。 この引数は、別のスクリプトに情報を渡すときに使用する。この書式の構造は変更される可能性があるので、書式の構造に依存しないように注意すること
sink	出力を破棄する。 UNIX システムでは、出力を /dev/null にリダイレクトする
detail	詳細情報を表示する。この書式は、コマンドによっては使用できない場合がある

出力書式の指定を省略した場合、デフォルトの出力書式が使用されます。コマンドのデフォルトの出力書式を確認するには、次のコマンドを実行します。

```
cr_cli -cmd command -h
```

出力書式の変更

ファイルに書き込まれたコマンド出力書式を変更するには、reformat.util コマンドを使用します。reformat.util コマンドは、指定の出力ファイルからデータを読み取り、このデータに指定の出力書式を設定します。

たとえば、ホストを作成し、hdb.h.add コマンドの出力を hostFile ファイルに serialized 書式で保存したとします。

```
cr_cli -cmd hdb.h.add -o serialized -u user-name -p password -name myhost
-tID NM:roxhost > hostFile
```

この出力の書式を hdb.detail に変更する場合は、util.reformat コマンドを使用します。

```
cr_cli -cmd util.reformat -o hdb.detail -u user-name -p password
-self file:hostFile
```

コマンドの出力書式が、次のように変更されます。

```
ID: 010010000204-1027365659275-00170-1199101891
Name: myhost
Description:
Virtual: false
Hidden: false
Type ID: 010010001024-0000000000000-00001-0000000004
Attributes:
<Table is empty>
Applications:
<Table is empty>
```

コマンド行インタフェースの実行

CLI コマンドを 1 つずつ実行するときは、`cr_cli` ツールを使用します。このツールは、CLI を単一行コマンドモードで呼び出します。

単一行コマンドモードでは、コマンドの入力が 1 つずつ受け付けられます。先に入力されたコマンドが完了するまで、次の入力パラメータは受け付けられません。このモードでは、Command Line Execution Client はコマンド履歴を保持しません。

`cr_cli` コマンドをファイルに格納し、シェルスクリプトから呼び出すことができます。この機能は、実行プランや比較の実行、ホストの生成など、あるタスクを何回も繰り返して実行する場合に便利です。

対話型コマンド行モードでは、シェルとして Jython インタプリタを使用します。このモードでは、CLI を使用すると、次のような利点が得られます。

- シェルに格納されたコマンド履歴を利用できます。
- Jython スクリプトから プロビジョニングソフトウェアコマンドを呼び出すことができます。
- 繰り返しの多い複雑な操作に適した、より効果的なスクリプトを作成できます。

▼ 単一コマンド CLI を実行する

手順

- **CLI Client** のインストール先サーバーで、次のコマンドを入力します。

  `./cr_cli -cmd` *subsystem.object.command* **`-u`** *user* **`-p`** *password*

▼ CLI Jython インタプリタを実行する

手順

1. **CLI Client** と **Jython** のインストール先サーバーで、**CLI Jython** インタプリタを起動します。

   ```
   ./cr_clij
   ```

2. スクリプトの先頭に次のコードを追加します。

   ```
   from clui import *
   app=PyCLUI()
   app.execStr(CLI command)
   App.close()
   ```

app=PyCLUI() の指定で、CLI が呼び出されます。App.close() 呼び出しで、この Jython クラスのインスタンスが削除されます。

コマンド行ヘルプの利用

CLI に関する一般的なヘルプを表示するには、次のように入力します。

```
cr_cli -help
```

特定のコマンドのヘルプを表示するには、次のように入力します。

```
cr_cli -cmd command -h
```

コマンドの説明テキストでは、次の記号で、引数が必須であるかオプションであるかを区別しています。

[O]	引数はオプションです。
[R]	引数は必須です。
[O/R]	引数は通常はオプションですが、必須になることもあります。 この場合、引数がいつ必要になるかについてのヘルプが表示されます。

以下に、例として hdb.h.add コマンドのヘルプを示します。

```
-u [O/R]: The user username for authentication: String
-p [O/R]: The user password for authentication: String
-s [O/R]: The session ID for authentication: SessionID
-name: The host name: String
-desc [O]: The host description: String
-tID: The ID of the host type: HostTypeID
-attr [O/R]: The host attributes; required if the host type requires
  them: Hashtable
```

この例の場合、必要な引数は -name、 -tID、および認証引数 (-u と -p、または -s) だけです。新しいホストが、ホスト属性を必要とするホストタイプである場合は、-attr 引数も必須になります。

-h を使ってヘルプを呼び出した場合、必須引数を識別する記号、[R] は使用されません。必須引数は、特別な記号なしで表示されます。

CLI コマンドの一覧

使用可能なコマンドを一覧表示するには、次のように入力します。

```
cr_cli -cmd -l
```

同じコマンド接頭辞を持つコマンドを一覧表示するときは、その接頭辞の後ろにワイルドカード * を指定します。場合によっては、* の前にエスケープ文字としてバックスラッシュ (\) を入力するか、コマンド名の部分を二重引用符で囲む必要があります。たとえば、hdb コマンドを一覧表示するには、次のように入力します。

```
cr_cli -cmd -l "hdb.*"
```

CLI コマンドは、以下のカテゴリにグループ分けされています。

- cat – カテゴリ
- cdb – コンポーネントデータベース
- cfg – 構成ジェネレータ
- cmp – 比較エンジン
- fdb – フォルダレポジトリ
- hdb – ホストレポジトリ
- net – ネットワークオペレーション
- pdb – プランレポジトリ
- pe – プランの実行
- plg – プラグインレポジトリ
- rule – 通知規則
- udb – ユーザーレポジトリ
- util – その他のユーティリティー

第 2 章

cat: カテゴリを管理するコマンド

この章では、カテゴリの管理に必要なコマンドについて説明します。

カテゴリを使って、次の情報を分類できます。

- プラン
- コンポーネント
- 比較

cat コマンドの概要

以下の表に、カテゴリ管理用の CLI コマンドの概要を示します。

表 **2–1** cat コマンドの概要

コマンド	説明
cat.add	新しいカテゴリを追加する
cat.del	指定されたカテゴリを削除する
cat.mod	カテゴリを変更する
cat.la	定義済みの全カテゴリを一覧表示する

cat.add

このコマンドは、リポジトリに新しいカテゴリを追加します。カテゴリには、名前と説明が割り当てられます。

表 **2–2** cat.add コマンドの引数と結果

引数/結果		クラス	説明
name	[R]	文字列	カテゴリ名
desc	[R]	文字列	カテゴリの説明
result		カテゴリ	新しいカテゴリオブジェクト

cat.del

このコマンドは、指定されたカテゴリを削除します。カテゴリを削除しても、カテゴリ内のオブジェクト (コンポーネント、プランなど) が削除されるわけではありません。

表 **2–3** cat.del コマンドの引数

引数		クラス	説明
ID	[R]	CategoryID	カテゴリインスタンス ID

cat.mod

このコマンドは、指定されたカテゴリを変更します。省略された引数の値は変更されません。

表 **2–4** cat.mod コマンドの引数と結果

引数/結果		クラス	説明
ID	[R]	CategoryID	カテゴリインスタンス ID
name	[O]	文字列	新しいカテゴリ名
desc	[O]	文字列	新しいカテゴリの説明
result		カテゴリ	変更後のカテゴリ

cat.la

このコマンドは、Sun N1 Service Provisioning System ソフトウェアに定義されているすべてのカテゴリを一覧表示します。

表 **2–5** cat.la コマンドの結果

結果	クラス	説明
result	カテゴリ	カテゴリインスタンス

第 3 章

cdb: コンポーネントを管理する CLI コマンド

この章では、コンポーネントとチェックインジョブの管理に必要なコマンドについて説明します。

- 29 ページの「cdb コマンドの概要」
- 30 ページの「cdb.c: コンポーネントの管理」
- 36 ページの「cdb.ic: インストール済みコンポーネントの管理」
- 37 ページの「cdb.vs: 変数設定の管理」
- 40 ページの「cdb.ssr: システムサービス ref コマンド」
- 42 ページの「cdb.ctr:コンポーネントタイプコマンド」
- 45 ページの「cdb.rsrc: コンポーネントの管理」
- 55 ページの「cdb.cj: チェックインジョブの管理」

cdb コマンドの概要

以下に、コンポーネント管理のための CLI コマンドセットを示します。

表 **3–1** コンポーネント管理のための CLI コマンドセット

CLI 接頭辞	コマンドセットの説明
cdb.c	コンポーネントを管理するためのコマンド
cdb.ic	インストール済みコンポーネントの情報を取得するためのコマンド
cdb.vs	変数設定オブジェクトを管理するためのコマンド
cdb.ssr	システムサービス ref オブジェクトを管理するためのコマンド

表 **3–1** コンポーネント管理のための CLI コマンドセット　*(続き)*

CLI 接頭辞	コマンドセットの説明
cdb.ctr	コンポーネントタイプの ref オブジェクトを管理するためのコマンド
cdb.rsrc	閲覧可能なコンポーネントを管理するためのコマンド
cdb.cj	コンポーネントチェックインジョブを制御/監視するためのコマンド

この章では、コマンドセットごとに、すべてのコマンドについて説明します。

cdb.c: コンポーネントの管理

`cdb.c` コマンドでは、一般的なコンポーネント管理処理を行うことができます。

表 **3–2** コンポーネントを管理する CLI コマンド

コマンド	説明
cdb.c.ci	閲覧不可のコンポーネントおよびコンポーネントモデルをチェックインする
cdb.c.co	コンポーネントをチェックアウトする
cdb.c.la	すべてのコンポーネントの全バージョンを一覧表示する
cdb.c.lo	コンポーネントの詳細情報を一覧表示する
cdb.c.lv	コンポーネントの全バージョンを一覧表示する
cdb.c.mod	コンポーネントを変更する
cdb.c.mv	コンポーネントを移動する、または名前を変更する
cdb.c.sc	コンポーネントに 1 つ以上のカテゴリを割り当てる
cdb.c.sh	コンポーネントを表示する、または非表示にする
cdb.c.del	コンポーネントを削除する

cdb.c.ci

特定のコンポーネントをチェックインするには、cdb.c.ci コマンドを使用します。このコマンドは、必ず以下のシナリオで使用します。

- 閲覧不能コンポーネント (たとえば、untyped コンポーネントまたは container コンポーネント) をチェックインする必要がある場合。

  閲覧可能コンポーネントをチェックインする必要がある場合は、cdb.rsrc.ci コマンドを使用します。コマンドとコマンド引数については、46 ページの「cdb.rsrc.ci」を参照してください。
- コンポーネントモデル (コンポーネントの XML 表現) をチェックインする必要があるが、参照先コンポーネントやソースオブジェクトはチェックインしない場合。この機能は、制御ブロックや変数値の更新時に使用できます。

  新しいバージョンのコンポーネントと、そのすべての参照先コンポーネントを作成する場合は、cdb.rsrc.ci コマンドを使用します。コマンドとコマンド引数については、46 ページの「cdb.rsrc.ci」を参照してください。

表 **3–3** cdb.c.ci コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
path	[R]	InputStreamWrapper	XML コンポーネント定義の場所
major	[O]	ブール型	新しいメジャーバージョンとしてチェックインするかどうか。デフォルトは false
import	[O]	ブール型	変数設定をインポートするかどうか。デフォルトは true
hidePrev	[O]	ブール型	古いコンポーネントを非表示にするかどうか。デフォルトは true
parents	[O]	ブール型	コンポーネントをチェックインするときに、存在しない親フォルダを作成するかどうか。デフォルトは false。
result		コンポーネント	新しいコンポーネント

cdb.c.co

このコマンドは、コンポーネントをチェックアウトし、指定されたコンポーネントを XML 書式で出力します。

表 **3–4** cdb.c.co コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
comp	[R]	ComponentID	表示するコンポーネント XML の ID
result		コンポーネント	XML 書式で出力されたコンポーネント

cdb.c.la

このコマンドは、すべてのコンポーネントの全バージョンを一覧表示します。

表 **3–5** cdb.c.la コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
sh	[O]	ブール型	非表示のコンポーネントを表示するかどうか。デフォルトは false
cat	[O]	CategoryID	適用するカテゴリフィルタ。デフォルトは “all”
folderID	[O]	FolderID	親フォルダ ID。デフォルトはルートフォルダ (NM:/)
flatView	[O]	ブール型	結果をフラットビューで表示するかどうか。デフォルトは true
result		SummaryComponent-Array	コンポーネント

cdb.c.lo

このコマンドは、指定されたコンポーネントの詳細を一覧表示します。

表 **3–6** cdb.c.lo コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
ID	[R]	ComponentID	表示するコンポーネントの ID

表 **3–6** cdb.c.lo コマンドの引数と結果　*(続き)*

引数/結果	構文	説明
result	コンポーネント	コンポーネント

cdb.c.lv

このコマンドは、指定されたコンポーネントの全バージョンを一覧表示します。

表 **3–7** cdb.c.lv コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
comp	[R]	ComponentID	コンポーネント
result		SummaryComponent-Array	コンポーネントの全バージョン

cdb.c.mod

このコマンドは、コンポーネントを変更し、新しいバージョンのコンポーネントを生成します。

表 **3–8** cdb.c.mod コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
comp	[R]	ComponentID	コンポーネント
label	[O]	文字列	コンポーネントラベル
desc	[O]	文字列	コンポーネントの説明

表 **3–8** cdb.c.mod コマンドの引数と結果　(続き)

引数/結果		構文	説明
rva	[O]	StringArray	コンポーネントのバージョン。バージョン番号は、推奨バージョンには「#」、デフォルトバージョンには「+」、最新バージョンには「-」を使用する。すべてのコンポーネントで最新バージョンを使用する場合は、この引数を省略する。 この引数は、複合コンポーネントにのみ適用可能
hidePrev	[O]	ブール型	古いバージョンを非表示にするかどうか。デフォルトは true
result		コンポーネント	コンポーネント

cdb.c.mv

このコマンドは、コンポーネントを移動するか、コンポーネントの名前を変更します。

表 **3–9** cdb.c.mv コマンドの引数

引数		構文	説明
ID	[R]	ComponentID	移動する、または名前を変更するコンポーネントの ID
fullname	[R]	文字列	コンポーネントの新しい完全名 (パス + 名前)

cdb.c.sc

このコマンドは、コンポーネントにカテゴリセットを関連付けます。

表 **3–10** cdb.c.sc コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
ID	[R]	ComponentID	影響を受けるコンポーネントの ID
catIDs	[R]	CategoryIDSet	このコンポーネントに関連付けるカテゴリの ID
all	[O]	ブール型	全バージョンのコンポーネントを変更するかどうか。デフォルトは false

cdb.c.sc

このコマンドは、コンポーネントにカテゴリセットを関連付けます。

表 **3–11** cdb.c.sc コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
ID	[R]	ComponentID	影響を受けるコンポーネントの ID
catIDs	[R]	CategoryIDSet	このコンポーネントに関連付けるカテゴリの ID
all	[O]	ブール型	全バージョンのコンポーネントを変更するかどうか。デフォルトは false

cdb.c.del

このコマンドは、コンポーネントを削除します。

表 **3–12** cdb.c.del コマンドの引数

引数		構文	説明
ID	[R]	ComponentID	削除するコンポーネントの ID

表 **3–12** cdb.c.del コマンドの引数　*(続き)*

引数		構文	説明
all	[O]	ブール型	全バージョンのコンポーネントを削除するかどうか。デフォルトは false

cdb.ic: インストール済みコンポーネントの管理

`cdb.ic` コマンドは、すでにホストにインストールされているコマンドの情報を取得します。

表 **3–13** インストール済みコンポーネントを管理する CLI コマンド

コマンド	説明
cdb.ic.lbc	コンポーネントがインストールされている全ホストを一覧表示する
cdb.ic.lbh	特定のホストにインストールされている全コンポーネントを一覧表示する
cdb.ic.vs.lo	指定の生成された変数設定オブジェクトの詳細を一覧表示する

cdb.ic.lbc

このコマンドは、特定のコンポーネントがインストールされている全ホストを一覧表示します。

表 **3–14** cdb.ic コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
comp	[R]	ComponentID	コンポーネント ID
result		InstalledComponent-BeanArray	インストール済みコンポーネント

cdb.ic.lbh

このコマンドは、特定のホストにインストールされている全コンポーネントを一覧表示します。

表 **3–15** cdb.ic.lbh コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
host	[R]	HostID	ホスト ID
cat	[O]	CategoryID	適用するカテゴリフィルタ。デフォルトは all
result		InstalledComponent-BeanArray	インストール済みコンポーネント

cdb.ic.vs.lo

このコマンドは、特定の生成された変数設定オブジェクトの詳細を一覧表示します。

表 **3–16** cdb.ic.vs.lo コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
ID	[R]	InstalledComponentID	生成された変数設定を表示するインストール済みコンポーネントの ID
result		GeneratedVariable-Settings	生成された変数設定

cdb.vs: 変数設定の管理

`cdb.vs` コマンドは、コンポーネントの変数設定を管理します。

表 **3–17** 変数設定を管理する CLI コマンド

コマンド	説明
cdb.vs.add	新しい変数設定オブジェクトを追加する
cdb.vs.del	変数設定オブジェクトを削除する
cdb.vs.imp	あるコンポーネントから別のコンポーネントに変数設定オブジェクトをインポートする
cdb.vs.la	特定のコンポーネントの変数設定オブジェクトをすべて一覧表示する

表 **3–17** 変数設定を管理する CLI コマンド　(続き)

コマンド	説明
cdb.vs.lo	特定の変数設定オブジェクトの詳細を一覧表示する
cdb.vs.mod	変数設定オブジェクトを変更する

cdb.vs.add

このコマンドは、新しい変数設定オブジェクトを追加します。

表 **3–18** cdb.vs.add コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	結果
comp	[R]	ComponentID	コンポーネント
name	[R]	文字列	新しい名前
vars	[R]	Hashtable	新しいオーバーライド値
result		ComponentVariable-Settings	新しいコンポーネント変数設定

cdb.vs.del

このコマンドは、既存の変数設定オブジェクトを削除します。

表 **3–19** cdb.vs.del コマンドの引数

引数		構文	説明
vs	[R]	ComponentVariable-SettingsID	削除するコンポーネント変数設定の ID

cdb.vs.imp

このコマンドは、あるコンポーネントから別のコンポーネントへ変数設定をインポートします。

表 **3–20** cdb.vs.imp コマンドの引数

引数		構文	説明
src	[R]	ComponentID	変数設定のインポート元コンポーネント
dst	[R]	ComponentID	変数設定のインポート先コンポーネント

cdb.vs.la

このコマンドは、特定のコンポーネントのすべての変数設定オブジェクトを一覧表示します。

表 **3–21** cdb.vs.la コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
comp	[R]	ComponentID	コンポーネント
result		ComponentVariable-SettingsArray	コンポーネント変数設定

cdb.vs.lo

このコマンドは、特定の変数設定オブジェクトの詳細を一覧表示します。

表 **3–22** cdb.vs.lo コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
vs	[R]	ComponentVariable-Settings	表示するコンポーネント変数設定
result		ComponentVariable-Settings	コンポーネント変数設定

cdb.vs.mod

このコマンドは、既存の変数設定オブジェクトを変更します。

表 **3–23** cdb.vs.mod コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
vs	[R]	ComponentVariable-Settings	コンポーネント変数設定
name	[O]	文字列	新しい名前
vars	[O]	Hashtable	新しいオーバーライド値
result		ComponentVariable-Settings	変更後のコンポーネント変数設定

cdb.ssr: システムサービス ref コマンド

表 **3–24** システムサービス ref CLI コマンド

コマンド	説明
cdb.ssr.add	システムサービス ref を追加する
cdb.ssr.mod	既存のシステムサービス ref を変更する。省略した場合、現在の値が保持される
cdb.ssr.del	システムサービス ref を削除する
cdb.ssr.lo	システムサービス ref を取得する
cdb.ssr.la	すべてのシステムサービス ref を一覧表示する

cdb.ssr.add

このコマンドは、新しいシステムサービス ref を追加します。

表 **3–25** cdb.ssr.add コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
name	[R]	文字列	システムサービス ref 名
desc	[O]	文字列	システムサービス ref の説明

表 **3–25** cdb.ssr.add コマンドの引数と結果　*(続き)*

引数/結果		構文	説明
icn	[R]	文字列	参照先のインストール済みコンポーネントの名前
icv	[R]	文字列	参照先のインストール済みコンポーネントのバージョン
icp	[O]	文字列	参照先のインストール済みコンポーネントのインストールパス
result		SystemServiceRef	新しいシステムサービス ref

cdb.ssr.mod

このコマンドは、既存のシステムサービス ref を変更します。省略した場合、現在の値が保持されます。

表 **3–26** cdb.ssr.mod コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
ssr	[R]	SystemServiceRef	ターゲットシステムサービス ref
name	[O]	文字列	システムサービス ref 名
desc	[O]	文字列	システムサービス ref の説明
icn	[O]	文字列	参照先のインストール済みコンポーネントの名前
icv	[O]	文字列	参照先のインストール済みコンポーネントのバージョン
icp	[O]	文字列	参照先のインストール済みコンポーネントのインストールパス
result		SystemServiceRef	変更後のシステムサービス ref

cdb.ssr.del

このコマンドは、システムサービス ref を削除します。

表 **3–27** cdb.ssr.del コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
ID	[R]	SystemServiceRefID	システムサービス ref の ID

cdb.ssr.lo

このコマンドは、システムサービス ref を取得します。

表 **3–28** cdb.ssr.lo コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
ID	[R]	SystemServiceRef	ターゲットシステムサービス ref
result		SystemServiceRef	システムサービス ref

cdb.ssr.la

このコマンドは、すべてのシステムサービス ref を一覧表示します。

表 **3–29** cdb.ssr.lo コマンドの引数と結果

引数/結果	構文	説明
result	SystemServiceRefArray	システムサービス ref

cdb.ctr:コンポーネントタイプコマンド

表 **3–30** コンポーネントタイプ ref の CLI コマンド

コマンド	説明
cdb.ctr.add	新しいコンポーネントタイプ ref を追加する

表 **3–30** コンポーネントタイプ ref の CLI コマンド　(続き)

コマンド	説明
cdb.ctr.mod	既存のコンポーネントタイプ ref を変更する。省略した場合、現在の値が保持される
cdb.ctr.del	コンポーネントタイプ ref を削除する
cdb.ctr.lo	コンポーネントタイプ ref を取得する
cdb.ctr.la	すべてのコンポーネントタイプ ref を一覧表示する

cdb.ctr.add

このコマンドは、新しいコンポーネントタイプ ref を追加します。

表 **3–31** cdb.ctr.add コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
name	[R]	文字列	コンポーネントタイプ ref 名
desc	[O]	文字列	コンポーネントタイプ ref の説明
order	[R]	文字列	コンポーネントタイプ ref の順序
`group`	[R]	文字列	コンポーネントタイプ ref グループ
indentLevel	[R]	文字列	コンポーネントタイプのインデントレベル
compref	[R]	文字列	コンポーネントタイプ ref 内のコンポーネント ref の名前
compver	[R]	文字列	コンポーネントタイプ ref 内のコンポーネント ref のバージョン
result		ComponentTypeRef	新しいコンポーネントタイプ ref

cdb.ctr.mod

既存のコンポーネントタイプ ref を変更します。省略した場合、現在の値が保持されます。

表 **3–32** cdb.ctr.mod コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
ctr	[R]	ComponentTypeRef	ターゲットのコンポーネントタイプ ref
name	[O]	文字列	コンポーネントタイプ ref 名
desc	[O]	文字列	コンポーネントタイプ ref の説明
order	[O]	文字列	コンポーネントタイプ ref の順序
group	[O]	文字列	コンポーネントタイプ ref グループ
indentLevel	[O]	文字列	コンポーネントタイプのインデントレベル
compver	[O]	文字列	コンポーネントタイプ ref 内のコンポーネント ref のバージョン
result		ComponentTypeRef	変更後のコンポーネントタイプ ref

cdb.ctr.del

このコマンドは、コンポーネントタイプ ref を削除します。

表 **3–33** cdb.ctr.del コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
ID	[R]	ComponentTypeRefID	コンポーネントタイプ ref の ID

cdb.ctr.lo

このコマンドは、コンポーネントタイプ ref を取得します。

表 **3–34** cdb.ctr.lo コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
ID	[R]	ComponentTypeRef	ターゲットのコンポーネントタイプ ref
result		ComponentTypeRef	コンポーネントタイプ ref

cdb.ctr.la

このコマンドは、すべてのコンポーネントタイプ ref を一覧表示します。

表 **3–35** cdb.ctr.la コマンドの引数と結果

引数/結果	構文	説明
result	ComponentTypeRef-Array	コンポーネントタイプ ref

cdb.rsrc: コンポーネントの管理

`cdb.rsrc` コマンドでは、一般的なコンポーネント管理処理を行うことができます。

表 **3–36** コンポーネントを管理する CLI コマンド

コマンド	説明
cdb.rsrc.ci	特定のコンポーネントとそのリソースをリポジトリにチェックインする
cdb.rsrc.cib	バッチファイルに記載されているすべてのコンポーネントをチェックインする
cdb.rsrc.co	指定のコンポーネントをチェックアウトする
cdb.rsrc.gd	リソース記述子を生成する
cdb.rsrc.rci	コンポーネントを再度チェックインする
cdb.rsrc.showopts	特定の型でサポートされているチェックインオプションを表示する

cdb.rsrc.ci

特定のコンポーネントとそのソースオブジェクトをチェックインするには、`cdb.rsrc.ci` コマンドを使用します。このコマンドは、必ず以下のシナリオで使用します。

- 閲覧可能コンポーネント (たとえば、`file` コンポーネントまたは `Weblogic EJB` コンポーネント) をチェックインする必要がある場合。

  閲覧不能コンポーネントをチェックインする必要がある場合は、`cdb.c.ci` コマンドを使用します。コマンドとコマンド引数については、31 ページの「cdb.c.ci」を参照してください。
- 単純コンポーネントのソースオブジェクトをチェックインする必要がある場合。
- 閲覧可能な複合コンポーネントの参照先コンポーネントをチェックインする必要がある場合。

`cdb.rsrc.ci` コマンドの呼び出しは、「チェックインジョブ」と見なされるため、チェックインジョブを管理する CLI コマンドで管理できます。たとえば、どの `cdb.rsrc.ci` コマンドが実行中であるのかを確認する場合は、`cdb.cj.la` コマンドを実行し、現在のチェックインジョブをすべて一覧表示します。`cdb.rsrc.ci` から返される `compCheckInID` 値を `cdb.cj.lo` の引数に指定して、特定のチェックインジョブのステータス情報を得ることもできます。

表 **3–37** cdb.rsrc.ci コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
src	[R]	文字列	チェックインするローカルファイルまたはディレクトリ
dst	[R]	文字列	チェックインに使用するコンポーネント名
type	[R]	文字列	コンポーネントタイプ
platform	[O]	HostSetID	コンポーネントのプラットフォーム
desc	[O]	文字列	コンポーネントの説明
major	[O]	ブール型	メジャーとマイナーのどちらのバージョン番号を増分するか。デフォルトは false
config	[O]	ブール型	コンポーネントが構成ファイルであるかどうか。デフォルトは false

表 **3–37** cdb.rsrc.ci コマンドの引数と結果　(続き)

引数/結果		構文	説明
hidePrev	[O]	ブール型	前回のコンポーネントを非表示にするかどうか。デフォルトは true
includeOwners	[O]	ブール型	所有者情報を含めるかどうか。デフォルトは true
includeGroups	[O]	ブール型	グループ情報を含めるかどうか。デフォルトは true
addTo	[O]	ブール型	既存のファイルを全部置き換えて新しいコンポーネントを作成するのではなく、チェックインするファイルを既存のファイルに追加して新しいバージョンのコンポーネントを作成するかどうか。
hostID	[O]	HostID	ローカルホストの ID
redun	[O]	ブール型	冗長チェックを適用するかどうか。デフォルトは true
pickerName	[O]	文字列	使用するコンポーネントピッカーの名前。デフォルトは null (デフォルトピッカー)

表 **3–37** cdb.rsrc.ci コマンドの引数と結果　*(続き)*

引数/結果		構文	説明
extraOpts	[O]	Hashtable	タイプに追加するオプションの名前と値。`extraOpts` 引数では、`config`、`includeOwners`、`includeGroups`、`addTo`、`redun` は指定できない。これらの値を指定するには、この表に記載されている同等のコマンド行オプションを使用する必要がある `extraOpts` パラメータの一例として `descriptorPath` がある。このパラメータを使用すれば、ファイルをチェックインするときに参照する予定のリソース記述子ファイルへのパスを指定できる。詳細については、『Sun N1 Service Provisioning System 5.1 XML スキーマリファレンスガイド』の第 5 章「リソース記述子スキーマ」を参照
result		CompCheckInID	このコンポーネントチェックインジョブの ID

cdb.rsrc.cib

このコマンドはチェックインをバッチ処理するコマンドです。バッチファイルに記載されているすべてのコンポーネントをチェックインします。

表 **3–38** cdb.rsrc.cib コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
batchfile	[R]	文字列	チェックインするコンポーネントのリストが記載されたバッチファイルの名前
haltonerror	[O]	ブール型	true の場合、最初のエラーでバッチ実行が停止する。デフォルトは true
pwdrelative	[O]	ブール型	true の場合、ユーザーディレクトリからの相対パスが使用される。それ以外の場合は、バッチファイルの格納場所からの相対パスが使用される。デフォルトは false
result		文字列	操作の完了を知らせるメッセージ

バッチファイルの概要

`rsrc.cib` は、チェックインするコンポーネントが 1 行に 1 つずつ記載されたバッチファイルを操作します。バッチファイルを利用すると、大量のコンポーネントを 1 回のコマンド実行でチェックインできます。

バッチファイル内の各行は、単一のコンポーネントとしてチェックインされる、ローカルマシン上の単一のコンポーネントに対応しています。各行は、いくつかのフィールドをパイプ (|) で区切った形式になっています。一部のフィールドはオプションで、省略可能です。オプションフィールドを省略する場合も、`rsrc.cib` が各フィールドを正しく識別できるように、次のフィールドとの間にパイプ (|) を挿入する必要があります。

バッチファイルにはコメントを挿入できます。先頭にシャープ (#) が付いている行がコメント行になります。

以下の表では、バッチファイルの行の構文について説明します。

表 **3–39** バッチファイル内の行の構文

内容	オプション/必須
ローカルマシン上のコンポーネントの格納場所	必須

表 **3–39** バッチファイル内の行の構文　*(続き)*

内容	オプション/必須
チェックイン時にコンポーネントに割り当てられる名前	必須
コンポーネントタイプ	必須
コンポーネントが表すプラットフォーム。「NM: <platform_name>」形式の HostSetID として表現される (<platform_name> は 表 3–40 に記載されているプラットフォーム名の 1 つ)	オプション
コンポーネントの説明	オプション
このファイルが構成ファイルであるかどうかを示すブール値	オプション (デフォルトは false)
チェックインに「2.0」のようなメジャーバージョン番号を割り当てるかどうかを示すブール値	オプション (デフォルトは false)
一番最近のバージョンのコンポーネントを非表示にするかどうかを決めるブール値	オプション (デフォルトは true)
アクセス権情報の格納時に所有者情報を含めるかどうかを示すブール値	オプション (デフォルトは true)
アクセス権情報の格納時にグループ情報を含めるかどうかを示すブール値	オプション (デフォルトは true)
既存のファイルを全部置き換えて新しいバージョンを作成するのではなく、チェックインするファイルを既存のファイルに追加して新しいバージョンを作成するかどうかを示すブール値	オプション (デフォルトは true)
このコンポーネントをホストからチェックインする場合、そのホストのホスト ID	オプション
冗長チェックを適用するかどうかを示すブール値	オプション (デフォルトは true)
使用するピッカーの名前 (オプション。デフォルトは null で、デフォルトピッカーを使用する)	

表 **3–39** バッチファイル内の行の構文　(続き)

内容	オプション/必須
文字列書式で表されたハッシュテーブル。そのタイプのエクスポータでサポートされる追加オプションが含まれている。`extraOpts` 引数では、以下のブール値は指定できない。 ■ ファイルが構成テンプレートであるかどうか ■ 所有者情報を含めるかどうか ■ グループ情報を含めるかどうか ■ チェックインするファイルを既存のファイルに追加するかどうか ■ 冗長チェックを行うかどうか これらの変数を指定するには、同等のバッチファイル書式オプションを使用します。	

以下の表に、バッチファイルの各行の 4 番目のフィールドで、コンポーネントのプラットフォームを指定するために使用できる名前を一覧表示します。

表 **3–40** プラットフォームの名前

プラットフォーム名	説明
任意	Sun N1 Service Provisioning System ソフトウェアでサポートされる任意のプラットフォーム
`AIX - any version`	IBM AIX 5.1 または IBM AIX 5.2
`AIX 5.1`	IBM AIX 5.1
`AIX 5.2`	IBM AIX 5.2
`Solaris - any version`	Solaris™ 6、Solaris 7、または Solaris 8 リリース
`Solaris 7`	Solaris 7 リリース
`Solaris 8`	Solaris 8 リリース
`Solaris 9`	Solaris 9 リリース
`Solaris 10`	Solaris 10 リリース
`Windows 2000 Server`	Microsoft Windows 2000 Server
`Red Hat Linux`	Red Hat Advanced Server 2.1

バッチファイル内の行の例

この例では、ローカルファイル `home/etc/myfile` を、構成ファイルではなくSolaris 7 プラットフォームのコンポーネントタイプファイルとして、「this is my file 」という説明とともに、コンポーネント名 `mypath/mycomponentname` でチェックインします。この場合、バッチファイルに次のような行を入力します。

```
/home/myfile|mypath/mycomponentname|file|NM:Solaris 7|this is my file
```

チェックインするファイルが構成ファイルである場合は、行末にブール値のフィールドを追加し、`true` を指定します。次に例を示します。

```
/home/myfile|mypath/mycomponentname|file|NM:Solaris 7|this is my file|true
```

mycomponent の説明を省略する場合は、この行を次のように変更します (パイプ区切りが 2 つ並んでいる点に注目)。

/home/myfile|mypath/mycomponentname|file|NM:Solaris 7||true

コンポーネントをメジャーバージョン (「2.0」のようなバージョン番号。「1.7」などは不可) としてチェックインするには、メジャーバージョンチェックインのブール値のフィールドに `true` を追加します。

/home/myfile|mypath/mycomponentname|file|NM:Solaris 7||`true`|`true`

チェックイン後も古いコンポーネントを非表示にしない場合は、上の行を次のように変更します (最後のフィールドに `false` が追加されている点に注目)。

/home/myfile|mypath/mycomponentname|file|NM:Solaris 7||`true`|`true`|`false`

アクセス許可情報を格納するとき所有者情報やグループ情報を含めるかどうかを指定するオプションのブール値にも、これと同じ書式上の規則が適用されます。

バッチファイルの構文

Sun N1 Service Provisioning System ソフトウェアは、バッチファイルの構文解析時に、次の規則を適用します。

- パス名が入るフィールドでは、スラッシュ (通常のスラッシュとバックスラッシュの両方) は常に、ネイティブファイルシステム上で使用されている規則に従って変換されます。
- ファイルのクラスタを視覚的に区分するために、空行を使用できます。
- フィールドの先頭または末尾の空白文字は削除できません。
- バッチファイルでは、絶対パスと相対パスの両方を使用できます。デフォルトでは、相対パスの基準はバッチファイルの格納場所になります。`-pwdrelative` フラグを使ってこの設定を無効にした場合、相対パスの基準は現在の作業ディレクトリになります。

呼び出し

テキストファイルを使ったバッチチェックイン処理は、次の形式の cdb.src.cib コマンドで呼び出します (“cib” は「check in batch (バッチチェックイン)」の頭文字)。

```
cdb.rsrc.cib -batchfile [batchfile location] [-haltonerror true|false]
[-pwdrelative true|false]
```

cdb.rsrc.cib コマンドは、コンポーネントのチェックインの前に、ファイルの構文チェックを行います。続いて、チェックインする予定のローカルファイルがすべて揃っていることを確認します。このどちらかのプロセスでエラーを検出した場合、cdb.rsrc.cib はエラーを報告し、実行を停止します。このとき、ブール引数 --haltonerror の設定は考慮されません。

haltonerror 引数

コマンド行にオプションの -haltonerror 引数を指定して (デフォルトは false)、エラーが検出されたファイル以降のファイルのチェックインを停止するかどうかを指定することができます。このブール引数は、cdb.rsrc.cib が予備エラーチェック (前の節で説明済み) を実行したあとのエラーにしか適用されません。

pwdrelative 引数

コマンド行にオプションの -pwdrelative プロビジョン (デフォルトは false) を指定して、バッチファイル内の相対パスの基準を現在の作業ディレクトリにするか (pwdrelative = true)、バッチファイルの格納場所にするか (pwdrelative = false) を指定することができます。

バッチファイル処理

バッチファイル処理は、トランザクション処理ではありません。したがって、バッチファイル処理に失敗したり、処理が途中で停止したりしても、問題の発生以前に正しくチェックインされたコンポーネントは、チェックインされた状態を保持します。これらのコンポーネントのチェックインが取り消されることはありません。

同時に複数のバッチチェックイン処理を行なった場合、その調停は行われません。2 つのバッチチェックイン処理が、同時に実行を開始する同じコンポーネントセットをターゲットにしている場合、一方のバッチファイルの処理が完了するまでもう一方の処理を抑制することはできません。近似タイミングにより、両方のバッチファイルが交互に処理されます。

cdb.rsrc.co

このコマンドは、指定されたコンポーネントをチェックアウトし、リポジトリからローカルマシンへコピーを転送します。

表 **3–41** cdb.rsrc.co の引数と結果

引数/結果		構文	説明
src	[R]	文字列	転送するコンポーネントの名前
v	[R]	文字列	コンポーネントのバージョン
dst	[R]	文字列	コンポーネントを配置する場所
result		文字列	操作の完了を知らせるメッセージ

cdb.rsrc.gd

このコマンドは、指定されたコンポーネントのリソース記述子を生成します。リソース記述子の詳細については、『Sun N1 Service Provisioning System 5.1 プランとコンポーネントの開発者ガイド』の「リソース記述子ファイルの概念」を参照してください。

表 **3–42** cdb.rsrc.gd コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
`ID`	[R]	ComponentID	記述子が生成されるコンポーネントの ID
例: `cr_cli -cmd cdb.rsrc.gd -ID NM:`*component-name*`[:`*version*`] -u <username> -p <password>`			

cdb.rsrc.rci

このコマンドは、コンポーネントを再度チェックインします。チェックインジョブへの割り込みが発生した場合は、このコマンドを使って再度チェックインします。このとき、チェックインするコンポーネントのバージョン番号を人為的に大きくする必要はありません。

表 **3–43** cdb.rsrc.rci コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
`ID`	[R]	ComponentID	再度チェックインするコンポーネントの ID

表 **3–43** cdb.rsrc.rci コマンドの引数と結果　*(続き)*

引数/結果	構文	説明
result	CompCheckInID	結果のチェックインジョブの ID

cdb.rsrc.showopts

このコマンドは、特定のコンポーネントタイプでサポートされるチェックインオプションを表示します。

表 **3–44** cdb.rsrc.showopts コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
type	[R]	文字列	コンポーネントタイプ
result		BrowserInfo[]	エクスポータでサポートされるコンポーネントピッカーの名前とオプション

cdb.cj: チェックインジョブの管理

コンポーネントをチェックインすると、チェックインジョブが生成されます。チェックインジョブは、コンポーネントが完全にリポジトリに格納され、バージョン番号を割り当てられた時点で完了します。`cdb.cj` コマンドでは、チェックインジョブを制御または監視することができます。

表 **3–45** チェックインジョブの管理と監視のための CLI コマンド

コマンド	説明
cdb.cj.la	すべてのチェックインジョブを一覧表示する
cdb.cj.lo	チェックインジョブのステータスと詳細を一覧表示する
cdb.cj.stop	チェックインジョブを停止する

cdb.cj.la

このコマンドは、チェックインジョブを一覧表示します。チェックインジョブとは、HTML ユーザーインタフェースや、`rsrc.ci` のような CLI チェックインコマンドでチェックインされるコンポーネントのことです。このコマンドで一覧表示されるのは、現在アクティブなすべてのジョブと、最近完了したジョブ 20 個です。

表 **3–46** cdb.cj.la コマンドの結果

結果	構文	説明
result	CompCheckInId[]	チェックインジョブ ID のリスト

cdb.cj.lo

このコマンドは、指定されたチェックインジョブのステータスと詳細を表示します。ジョブの指定には、compCheckInID を使用します。この値は、コンポーネントのチェックイン時に `cdb.rsrc.ci` から返されます。

表 **3–47** cdb.cj.lo コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
ID	[R]	compCheckInID	チェックインジョブの ID
result		compStatus	指定されたチェックインジョブ

注 – このコマンドにはチェックインジョブの ID が必要であるため、引数として ID NM: 表記を使用することはできません。compCheckInId の構文の詳細については、付録 A を参照してください。

---

cdb.cj.stop

このコマンドは、指定されたチェックインジョブを停止します。

表 **3–48** rsrc.cj.stop コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
ID	[R]	CompCheckInID	チェックインジョブの ID
result		CompStatus	指定されたチェックインジョブ

注 – このコマンドにはチェックインジョブの ID が必要であるため、引数として ID NM: 表記を使用することはできません。CheckInJobID の構文の詳細については、付録 A を参照してください。

第 4 章

cfg: 構成を生成する CLI コマンド

この章では、構成の生成に必要なコマンドについて説明します。

cfg コマンドの概要

cfg コマンドは、構成を生成します。

表 4–1 cfg コマンドの概要

コマンド	説明
cfg.gen	入力の構成を生成する

cfg.gen

このコマンドは、入力の構成を生成します。

表 4–2 cfg.gen コマンドの引数

引数		構文	説明
path	[R]	ReaderWrapper	入力ソース
host	[R]	ホスト	ターゲットホスト
comp	[R]	コンポーネント	ターゲットコンポーネント

表 **4–2** cfg.gen コマンドの引数　*(続き)*

引数		構文	説明
vs	[O]	ComponentVariable-Settings	ターゲットのオーバーライド変数設定

第 5 章

cmp: 比較を実行する CLI コマンド

この章では、比較の実行に必要なコマンドについて説明します。

cmp コマンドの概要

cmp コマンドは、比較を制御します。

表 **5–1** cmp コマンドの概要

コマンド名	説明
cmp.dj.add	新しい比較を追加 (開始) する
cmp.dj.del	新しい比較を削除 (停止) する
cmp.dj.la	実行中の比較と完了した比較を一覧表示する
cmp.dj.lo	実行中の比較を検出して、ステータスを表示する
cmp.ds.add	指定された比較に比較設定を追加する
cmp.ds.la	すべての比較設定を一覧表示する
cmp.ds.lo	指定された比較設定を検出する
cmp.ds.del	指定された比較から比較設定を削除する
cmp.ds.sc	比較設定とカテゴリを関連付ける
cmp.ds.mod	指定された比較設定を変更する

cmp.dj.add

このコマンドは、新しい比較を追加 (開始) します。

表 **5–2** cmp.dj.add コマンドの引数と結果

引数/結果		クラス	説明
ID	[R]	DifferenceSettings	比較設定
result		DifferenceJobID	新しい比較の ID

cmp.dj.del

このコマンドは、実行中の比較を削除 (停止) します。

表 **5–3** cmp.dj.del コマンドの引数と結果

引数/結果		クラス	説明
ID	[R]	DifferenceJobID	実行中の比較の ID
result		ブール型	比較が正常に停止した場合は true

cmp.dj.la

このコマンドは、実行中の比較と完了した比較を一覧表示します。

表 **5–4** cmp.dj.la コマンドの引数と結果

引数/結果		クラス	説明
max	[O]	整数	一覧表示するジョブの最大数。実行中の比較の数が指定された数より多い場合は無視される
result		RunningDiffBeanArray	実行中の比較全部と完了した比較の一部

cmp.dj.lo

このコマンドは、実行中の比較を検出し、進捗状況を表示します。

表 **5–5** cmp.dj.lo コマンドの引数

引数/結果		クラス	説明
ID	[R]	DifferenceJobID	比較の ID
old	[O]	ブール型	古いメッセージを表示するかどうか。デフォルトは false
new	[O]	ブール型	新しいメッセージをポーリングするかどうか。デフォルトは true

cmp.ds.add

このコマンドは、新しい比較設定を追加します。スタイル、レベル、スコープの組み合わせによっては、オプションの引数が必要な場合もあります。

表 **5–6** cmp.ds.add コマンドの引数と結果

引数/結果		クラス	説明
name	[R]	文字列	比較設定の名前
desc	[O]	文字列	設定の説明
style	[R]	スタイル	設定のスタイル
level	[R/O]	レベル	設定のレベル
scope	[R/O]	スコープ	設定のスコープ
srchID	[R/O]	HostID	設定のソースホストの ID
dsthID	[R/O]	HostID	設定のターゲットホストの ID
dsthsID	[R/O]	HostSetID	設定のターゲットホストセットの ID
srcdir	[R/O]	文字列	設定のソースディレクトリ
dstdir	[R/O]	文字列	設定のターゲットディレクトリ
ignp	[R/O]	StringArray	設定を無視するパス
cRef	[R/O]	InstalledComponent-Ref	設定のコンポーネント参照

表 **5–6** cmp.ds.add コマンドの引数と結果　(続き)

引数/結果		クラス	説明
tout	[R]	TimeInterval	設定のタイムアウト
fsl	[O]	ブール型	シンボリックリンクをたどるかどうか。デフォルトは true
incd	[O]	ブール型	設定のサブディレクトリフラグを含むかどか。デフォルトは false
srcP	[R/O]	ReaderWrapper	設定のソース準備ミニプラン
dstP	[R/O]	ReaderWrapper	設定のターゲット準備ミニプラン
srcC	[R/O]	ReaderWrapper	設定のソースクリーンアップミニプラン
dstC	[R/O]	ReaderWrapper	設定のターゲットクリーンアップミニプラン
usePlans	[R/O]	ブール型	ミニプランを実行するかどうかを示す設定フラグ。デフォルトは true
dstUseSrcP	[R/O]	ブール型	ターゲットでソース準備ミニプランを使用するかどうかを示す設定フラグ。デフォルトは true
dstUseSrcC	[R/O]	ブール型	ターゲットでソースクリーンアップミニプランを使用するかどうかを示す設定フラグ。デフォルトは true
result		DifferenceSettings	新しい比較設定

cmp.ds.la

このコマンドは、すべての比較設定を一覧表示します。

表 **5–7** cmp.ds.la コマンドの引数と結果

引数/結果		クラス	説明
cat	[O]	CategoryID	適用するカテゴリフィルタ。デフォルトは “all”
result		DifferenceSettings-Array	すべての比較設定

cmp.ds.lo

このコマンドは、指定された比較設定を検出します。

表 **5–8** cmp.ds.lo コマンドの引数と結果

引数/結果		クラス	説明
ID	[R]	DifferenceSettingsID	比較設定の ID
result		DifferenceSettings	比較設定

cmp.ds.del

このコマンドは、比較設定オブジェクトを削除します。

表 **5–9** cmp.ds.del コマンドの引数と結果

引数/結果		クラス	説明
ID	[R]	DifferenceSettingsID	比較設定の ID

cmp.ds.mod

このコマンドは、既存の設定をテンプレートとして利用して、新しい比較設定を追加します。省略された引数は、可能であれば現在の値を保持します。

表 **5–10** cmp.ds.mod コマンドの引数と結果

引数/結果		クラス	説明
ID	[R]	DifferenceSettingsID	テンプレートとなる比較設定の ID

表 **5–10** cmp.ds.mod コマンドの引数と結果　*(続き)*

引数/結果		クラス	説明
desc	[O]	文字列	設定の説明
style	[O]	スタイル	設定のスタイル
level	[R/O]	レベル	設定のレベル
scope	[R/O]	スコープ	設定のスコープ
srchID	[R/O]	HostID	設定のソースホストの ID
dsthID	[R/O]	HostID	設定のターゲットホストの ID
dsthsID	[R/O]	HostSetID	設定のターゲットホストセットの ID
srcdir	[R/O]	文字列	設定のソースディレクトリ
dstdir	[R/O]	文字列	設定のターゲットディレクトリ
ignp	[R/O]	StringArray	設定を無視するパス
cRef	[R/O]	InstalledComponent-Ref	設定のコンポーネント参照
tout	[O]	TimeInterval	設定のタイムアウト
fsl	[O]	ブール型	シンボリックリンクをたどるかどうか。デフォルトは trueこの引数を省略した場合、現在の値が保持される
incd	[O]	ブール型	サブディレクトリがあるかどうかを示す設定フラグ
srcP	[R/O]	ReaderWrapper	設定のソース準備ミニプラン
dstP	[R/O]	ReaderWrapper	設定のターゲット準備ミニプラン
srcC	[R/O]	ReaderWrapper	設定のソースクリーンアップミニプラン
dstC	[R/O]	ReaderWrapper	設定のターゲットクリーンアップミニプラン

表 **5–10** cmp.ds.mod コマンドの引数と結果　*(続き)*

引数/結果		クラス	説明
usePlans	[R/O]	ブール型	ミニプランを実行するかどうかを示す設定フラグ。デフォルトは true。この引数を省略した場合、現在の値が保持される
dstUseSrcP	[R/O]	ブール型	ターゲットでソース準備ミニプランを使用するかどうかを示す設定フラグ。デフォルトは true。この引数を省略した場合、現在の値が保持される
dstUseSrcC	[R/O]	ブール型	ターゲットでソースクリーンアップミニプランを使用するかどうかを示す設定フラグ。デフォルトは true。この引数を省略した場合、現在の値が保持される
result		DifferenceSettings	新しい比較設定

cmp.ds.sc

このコマンドは、比較設定とカテゴリを関連付けます。

表 **5–11** cmp.ds.sc コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
ID	[R]	DifferenceSettingsID	影響を受ける比較設定の ID
catIDs	[R]	CategoryIDSet	この比較設定と関連付けるカテゴリの ID

第 6 章

fdb: フォルダを管理する CLI コマンド

この章では、フォルダを管理するコマンドについて説明します。

fdb コマンドの概要

以下の表に、フォルダ管理用の CLI コマンドの概要を示します。

表 **6–1** fdb コマンドの概要

コマンド	説明
fdb.f.add	フォルダを作成する
fdb.f.mod	フォルダを変更する
fdb.f.mv	フォルダを移動または名前を変更する
fdb.f.del	フォルダを削除する
fdb.f.la	全フォルダを一覧表示する
fdb.f.lo	単一のフォルダの詳細を一覧表示する
fdb.f.co	フォルダの所有者グループを変更する
fdb.f.mp	フォルダのアクセス許可を変更する

fdb.f.add

このコマンドは、フォルダを作成します。

表 **6–2** `fdb.f.add` コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
fullname	[R]	文字列	フォルダの完全名。フォルダのパスとフォルダ名で構成される
desc	[O]	文字列	フォルダの説明
parents	[0]	ブール型	存在しない親フォルダを作成するかどうか。デフォルトは false です。
result		フォルダ	新しいフォルダ

fdb.f.mod

このコマンドは、指定されたフォルダを変更します。

表 **6–3** `fdb.f.mod` コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
ID	[R]	FolderID	フォルダインスタンス ID
desc	[O]	文字列	フォルダの説明
result		フォルダ	変更後のフォルダ

fdb.f.mv

このコマンドは、フォルダを移動するか、フォルダの名前を変更します。フォルダの内容も移動します。

表 **6–4** `fdb.f.mv` コマンドの引数

引数		構文	説明
ID	[R]	FolderID	移動する、または名前を変更するフォルダの ID

表 **6–4** `fdb.f.mv` コマンドの引数　*(続き)*

引数		構文	説明
fullname	[R]	文字列	新しいフォルダの完全名。フォルダのパスとフォルダ名で構成される

fdb.f.del

このコマンドは、フォルダとその内容を削除します。

表 **6–5** `fdb.f.del` コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
ID	[R]	FolderID	削除するフォルダの ID
result		なし	

fdb.f.la

このコマンドは、全フォルダを一覧表示します。

表 **6–6** `fdb.f.la` コマンドの引数

引数		構文	説明
folderID	[O]	FolderID	親フォルダ ID。デフォルトはルートフォルダ (NM:/)
flatView	[O]	ブール型	結果をフラットビューで (親から再帰的に) 一覧表示するかどうか。デフォルトは true

fdb.f.lo

このコマンドは、単一のフォルダの詳細を一覧表示します。

表 **6–7** `fdb.f.lo` コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
ID	[R]	FolderID	フォルダの ID
result		フォルダ	フォルダ

fdb.f.co

このコマンドは、フォルダの所有者グループを変更します。

表 **6–8** `fdb.f.co` コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
ID	[R]	FolderID	フォルダ ID
groupID	[R]	GroupID	グループ ID
result		フォルダ	変更後のフォルダ

fdb.f.mp

このコマンドは、フォルダのアクセス許可を変更します。

表 **6–9** `fdb.f.mp` コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
ID	[R]	FolderID	フォルダ ID
groupID	[R]	GroupID	グループ ID
write	[O]	ブール型	グループがフォルダの `write` アクセス許可を持つかどうか。デフォルトは false。true の場合、`checkin-current` と `autorun` のアクセス許可も true に設定される

表 **6–9** `fdb.f.mp` コマンドの引数と結果　*(続き)*

引数/結果		構文	説明
checkin-current	[O]	ブール型	グループがフォルダの `checkin-current` アクセス許可を持つかどうか。デフォルト値は、`write` アクセス権の値と同じ。グループのアクセス許可の更新中にこの値が指定されていないと、値はデフォルト値に戻る
autorun	[O]	ブール型	グループがフォルダの `autorun` アクセス許可を持つかどうか。デフォルト値は、`write` アクセス権の値と同じ。グループのアクセス許可の更新中にこの値が指定されていないと、値はデフォルト値に戻る
execute	[O]	HostSetID	`execute` アクセス許可が適用される hostSetID。空の値を指定した場合、すべてのホストセットの `execute` アクセス許可が除去される。すべてのホストセットにこのアクセス許可を設定するには、クライアントで `allhosts` という標識値を使用する。なお、この標識値は、ブラウザインタフェースでは「汎用セット」になる
result		フォルダ	変更後のフォルダ

第 7 章

hdb: ホストを管理する CLI コマンド

この章では、ホストの管理に必要なコマンドについて説明します。

概要

以下に、ホスト管理のための CLI コマンドセットを示します。

表 7–1 ホスト管理のための CLI コマンドセット

CLI 接頭辞	コマンドセットの説明
hdb.a	アプリケーションインスタンスを管理するコマンド (リモートエージェントやローカルディストリビュータなどのアプリケーション)
hdb.h	ターゲットホストを管理するコマンド
hdb.hr	ホスト検索を管理するコマンド
hdb.hs	ホストセットを管理するコマンド
hdb.ht	ホストタイプを管理するコマンド

この章では、コマンドセットごとに、すべてのコマンドについて説明します。

hdb.a: アプリケーションインスタンスの管理

hdb.a コマンドファミリーは、リモートエージェントやローカルディストリビュータなど プロビジョニングソフトウェア のアプリケーションのインスタンスを制御します。

表 **7–2** hdb.a コマンドの概要

コマンド名	説明
hdb.a.add	新しいアプリケーションインスタンスを追加する
hdb.a.del	アプリケーションインスタンスを削除する
hdb.a.la	すべてのアプリケーションインスタンスを一覧表示する
hdb.a.lo	特定のアプリケーションインスタンスの情報を検出する
hdb.a.mod	既存のアプリケーションインスタンスを変更する
hdb.a.clear	アプリケーションインスタンスのリソースキャッシュを消去する

hdb.a.add

このコマンドは、新しいアプリケーションインスタンスを追加し、特定の Sun N1 Service Provisioning System ソフトウェアアプリケーションの特定の構成をマスターサーバーに登録します。

表 **7–3** hdb.a.add コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
hID	[R]	HostID	新しいインスタンスが格納されているホストの ID
type	[R]	AppType	アプリケーション型 (RA|LD)

表 7–3 hdb.a.add コマンドの引数と結果　(続き)

引数/結果		構文	説明
pID	[R]	AppInstanceID	親アプリケーション ID
ip	[R]	文字列	アプリケーションの IP アドレス (x.y.z.w)
port	[O]	整数	アプリケーションポート (ssh には不要)
conn	[R]	ConnectionType	接続型 (raw|ssh|ssl)
param	[O]	文字列	パラメータ
result		UIAppInstanceUpdate	新しいアプリケーションインスタンスと関連警告

注 – 接続型が `ssh` のアプリケーションで、`-port` 引数を省略したり、ポートを 0 に設定した場合は、デフォルトの `ssh` ポートが使用されます。

hdb.a.del

このコマンドは、マスターサーバーの内部ファイルからアプリケーションインスタンスを削除します。いったん削除されたアプリケーションインスタンスは、マスターサーバーによって認識されなくなります。

注 – アプリケーションインスタンスを削除しても、アプリケーションインスタンスがインストールされたマシン上の Sun N1 Service Provisioning System ソフトウェアファイルは削除されません。

表 7–4 hdb.a.del コマンドの引数

引数		構文	説明
ID	[R]	AppInstanceID	アプリケーションインスタンス ID

例 7–1 アプリケーションインスタンスを削除する例

この例では、`NewYork-v240` という名前のホストからリモートエージェントとローカルディストリビュータを削除します。

ホスト名　`NewYork-v240`

例 **7–1** アプリケーションインスタンスを削除する例　*(続き)*

```
[Deleting the Remote Agent]
% ./cr_cli -cmd hdb.a.del -ID NM:NewYork-v240:RA -u admin -p admin

[Deleting the Local Distributor]
% ./cr_cli -cmd hdb.a.del -ID NM:NewYork-v240:LD -u admin -p admin
```

hdb.a.la

このコマンドは、マスターサーバーによって認識されているすべてのアプリケーションインスタンスを一覧表示します。

このコマンドでは、引数は使用できません。

表 **7–5** hdb.a.la コマンドの戻り値

結果	結果の構文	説明
result	AppInstanceArray	アプリケーションインスタンス

hdb.a.lo

このコマンドは、指定されたアプリケーションインスタンスに関する情報を検出します。

表 **7–6** hdb.a.lo コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
ID	[R]	AppInstanceID	アプリケーションインスタンス ID
result		AppInstance	アプリケーションインスタンス

hdb.a.mod

このコマンドは、既存のアプリケーションインスタンスの指定された属性を変更します。省略された引数の値は変更されません。

表 **7–7** hdb.a.mod コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
ID	[R]	AppInstanceID	アプリケーションインスタンス ID
pID	[O]	AppInstanceID	新しい親アプリケーション ID
ip	[O]	文字列	アプリケーションの新しい IP アドレス (x.y.z.w)
port	[O]	整数	新しいアプリケーションポート
conn	[O]	ConnectionType	新しい接続型 (raw | ssh | ssl)
param	[O]	文字列	新しいパラメータ
result		UIAppInstanceUpdate	変更後のアプリケーションインスタンスと関連警告

注 – 接続型が `ssh` のアプリケーションで、`-port` 引数を省略したり、ポートを 0 に設定した場合は、デフォルトの `ssh` ポートが使用されます。

hdb.a.clear

このコマンドは、アプリケーションインスタンスのリソースキャッシュを消去します。

表 **7–8** hdb.a.clear コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
ID	[R]	AppInstanceID	アプリケーションインスタンス ID

hdb.h: ホストの管理

hdb.h コマンドは、ターゲットホストを管理します。ターゲットホストとは、Sun N1 Service Provisioning System ソフトウェアで管理されているアプリケーションの物理ホストと仮想ホストのことです。

表 **7–9** hdb.h コマンドの概要

コマンド	説明
hdb.h.add	新しいホストを追加する
hdb.h.del	ホストを削除する
hdb.h.la	すべてのホストを一覧表示する
hdb.h.lo	ホストに関する情報を検出する
hdb.h.lq	一致するホストを照会する
hdb.h.mod	既存のホストを変更する

hdb.h.add

このコマンドは、ホストリポジトリに新しいホストを追加します。

表 **7–10** hdb.h.add コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
name	[R]	文字列	ホスト名
desc	[O]	文字列	ホストの説明
tID	[R]	HostTypeID	ホストタイプの ID
attr	[O]	Hashtable	ホストの属性
hide	[O]	ブール型	ホストを非表示にするかどうか。デフォルトは false
pID	[O]	HostID	仮想ホストの場合は親ホストの ID、物理ホストの場合は空
result		ホスト	新しいホスト

注 – -attr 引数は優先指定を設定するだけです。明示的に指定されていない属性は、デフォルト値を保持します。

例 **7–2** ホストを追加する例

この例では、プロビジョニングソフトウェア に基本ホストを追加します。

ホスト名　　NewYork-v240

ホストタイプ　　system#crhost

```
% ./cr_cli -cmd hdb.h.add -name NewYork-v240  \
-tID NM:system#crhost -u admin -p admin
```

例 **7–3** 仮想ホストを追加する例

この例では、NewYork-v240 という名前のサーバーにある仮想ホストを追加します。

仮想ホスト名　　MyAppServer-vhost

ホストタイプ　　system#crhost

親ホスト名　　NewYork-v240

```
% ./cr_cli -cmd hdb.h.add -name MyAppServer-vhost  \
-tID NM:system#crhost -pID NM:NewYork-v240 -u admin -p admin
```

hdb.h.del

このコマンドでは、ホストと、ホストにインストールされているすべてのアプリケーションインスタンスおよびコンポーネントを削除します。詳細については、『Sun N1 Service Provisioning System 5.1 システム管理者ガイド』の「ホストの削除」を参照してください。

表 **7–11** hdb.h.del コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
ID	[R]	HostID	ホスト ID

例 **7–4** ホストレコードを削除する例

この例ではホストを削除します。

ホスト名　　NewYork-v240

```
% ./cr_cli -cmd hdb.h.del -ID NM:NewYork-v240 -u admin -p admin
```

hdb.h.la

このコマンドは、リポジトリ内のすべてのホストを一覧表示します。

表 **7–12** hdb.h.la コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
sh	[O]	ブール型	非表示のホストを表示するかどうか。デフォルトは false
result		HostArray	ホスト

hdb.h.lo

このコマンドは、リポジトリからホストに関する情報を検出します。

表 **7–13** hdb.h.lo コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
ID	[R]	HostID	ホスト ID
result		ホスト	ホスト

hdb.h.lq

このコマンドは、指定された条件またはフィルタに一致するホストを照会します。

注 – このコマンドを呼び出すときは、クエリー (`-query`) かフィルタ (`-filt` または `-phys`) を指定する必要があります。

表 **7–14** hdb.h.lq コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
query	[O]	AttributeCriteriaList	照会条件
filt	[O]	AppTypeCriteria	アプリケーション型のフィルタ
phys	[O]	PhysicalCriteria	物理ホストまたは仮想ホストに限定するフィルタ

表 **7–14** hdb.h.lq コマンドの引数と結果　(続き)

引数/結果		構文	説明
sh	[O]	ブール型	非表示のホストを表示するかどうか。デフォルトは false
result		HostArray	ホスト

hdb.h.mod

このコマンドは、既存のホストの指定された属性を変更します。省略された引数の値は変更されません。

表 **7–15** hdb.h.mod コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
ID	[R]	HostID	ホスト ID
name	[O]	文字列	ホスト名
desc	[O]	文字列	ホストの説明
tID	[O]	HostTypeID	ホストタイプの ID
attr	[O]	Hashtable	ホストの属性
hide	[O]	ブール型	ホストを非表示にするかどうか
pID	[O]	HostID	仮想ホストの場合は親ホストの ID、物理ホストの場合は “<null>”
result		ホスト	変更後のホスト

注 **–** 値を変更する属性は、`-attr` 引数で指定します。明示的に指定されていない属性は、デフォルト値を保持します。または、デフォルト値にリセットされます。

---

hdb.hr: ホスト検索の管理

概要

`hdb.hr` コマンドは、ホスト検索を管理します。

表 **7–16** hdb.hr コマンドの概要

コマンド	説明
hdb.hr.add	新しいホスト検索を追加する
hdb.hr.del	ホスト検索を削除する
hdb.hr.la	すべてのホスト検索を一覧表示する
hdb.hr.le	ホスト検索によって返されるすべてのホストを一覧表示する
hdb.hr.lo	ホスト検索に関する情報を検出する
hdb.hr.mod	既存のホスト検索を変更する

hdb.hr.add

このコマンドは、新しいホスト検索を追加し、リポジトリにホスト検索の名前と検索条件を入力します。

表 **7–17** hdb.hr.add コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
name	[R]	文字列	ホスト検索の名前
desc	[O]	文字列	ホスト検索の説明
q	[R/O]	AttributeCriteriaList	動的なクエリー。filt と phys が指定されていない場合は必須
filt	[R/O]	AppTypeCriteria	検索を特定のホストタイプに制限するフィルタ。q と phys が指定されていない場合は必須

表 **7–17** hdb.hr.add コマンドの引数と結果　*(続き)*

引数/結果		構文	説明
phys	[R/O]	PhysicalCriteria	物理ホストまたは仮想ホストに制限するフィルタ。q と filt が指定されていない場合は必須
hide	[O]	ブール型	検索を非表示にするかどうか。デフォルトは false
result		HostSearch	新しいホスト検索

hdb.hr.del

このコマンドは、ホスト検索を削除します。

表 **7–18** hdb.hr.del コマンドの引数と結果

引数		構文	説明
ID	[R]	HostSearchID	ホスト検索の ID

hdb.hr.la

このコマンドは、リポジトリ内に定義されているすべてのホスト検索を一覧表示します。

表 **7–19** hdb.hr.la コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
sh	[O]	ブール型	非表示の検索を表示するかどうか。デフォルトは false
result		HostSearchArray	ホスト検索

hdb.hr.le

このコマンドは、指定されたホスト検索の条件に一致するすべてのホストを一覧表示します。一覧表示されるのは、hdb.hr.le の実行時にこれらの条件に一致するホストです。

表 **7–20** hdb.hr.le コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
ID	[R]	HostSearchID	ホスト検索の ID
sh	[O]	ブール型	非表示の検索を表示するかどうか。デフォルトは false
result		HostArray	ホスト

hdb.hr.lo

このコマンドは、指定されたホスト検索に関する情報を検出します。

表 **7–21** hr.hr.lo コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
ID	[R]	HostSearchID	ホスト検索の ID
result		HostSearch	ホスト検索

hdb.hr.mod

このコマンドは、既存のホスト検索を変更します。省略された引数の値は変更されません。

表 **7–22** hdb.hr.mod コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
ID	[R]	HostSearchID	ホスト検索の ID
name	[O]	文字列	ホスト検索の名前
desc	[O]	文字列	ホスト検索の説明
q	[O]	AttributeCriteriaList	動的クエリー
filt	[O]	VarValueCriteria	検索を特定のホストタイプに制限するオプションフィルタ
phys	[O]	PhysicalCriteria	物理ホストまたは仮想ホストに限定するフィルタ

表 **7–22** hdb.hr.mod コマンドの引数と結果　*(続き)*

引数/結果		構文	説明
hide	[O]	ブール型	検索を非表示にするかどうか
result		HostSearch	変更後のホスト検索

hdb.hs: ホストセットの管理

hdb.hs コマンドは、ホストセットを管理します。

表 **7–23** hdb.hs コマンドの概要

コマンド	説明
hdb.hs.add	新しいホストセットを追加する
hdb.hs.del	ホストセットを削除する
hdb.hs.la	すべてのホストセットを一覧表示する
hdb.hs.le	ホストセットに含まれるすべてのホストを一覧表示する
hdb.hs.lo	ホストセットに関する情報を検出する
hdb.hs.mod	既存のホストセットを変更する

hdb.hs.add

このコマンドは、リポジトリに新しいホストセットを追加します。

表 **7–24** hdb.hs.add コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
name	[R]	文字列	ホストセットの名前
desc	[O]	文字列	ホストセットの説明
hIDs	[O]	HostIDSet	静的メンバーホストの ID
sIDs	[O]	HostSetIDSet	ホストサブセットの ID

表 **7–24** hdb.hs.add コマンドの引数と結果　(続き)

引数/結果		構文	説明
rIDs	[O]	HostSearchIDSet	ホスト検索の ID
hide	[O]	ブール型	ホストセットを非表示にするかどうか。デフォルトは false
result		HostSet	新しいホストセット

hdb.hs.del

このコマンドは、ホストセットを削除します。

表 **7–25** hdb.hs.del コマンドの引数と結果

引数		構文	説明
ID	[R]	HostSetID	ホスト ID

hdb.hs.la

このコマンドは、Sun N1 Service Provisioning System ソフトウェアに定義されているすべてのホストセットを一覧表示します。

表 **7–26** hdb.hs.la コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
hide	[O]	ブール型	非表示のホストセットを表示するかどうか。デフォルトは false
result		HostSetArray	ホストセット

hdb.hs.le

このコマンドは、指定されたホストセットに含まれるすべてのホストを一覧表示します。

表 **7–27** hdb.hs.le コマンドの引数と結果

引数		構文	説明
ID	[R]	HostSetID	ホストセット ID
hide	[O]	ブール型	非表示のホストセットを表示するかどうか。デフォルトは false
result		HostArray	ホスト

hdb.hs.lo

このコマンドは、指定されたホストセットを検出します。

表 **7–28** hdb.hs.lo コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
ID	[R]	HostSetID	ホストセット ID
result		HostSet	ホストセット

hdb.hs.mod

このコマンドは、既存のホストセットを変更します。省略した場合、現在の値が保持されます。

表 **7–29** hdb.hs.mod コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
ID	[R]	HostSetID	ホストセット ID
name	[O]	文字列	ホストセットの名前
desc	[O]	文字列	ホストセットの説明
hIDs	[O]	HostIDSet	静的メンバーホストの ID
sIDs	[O]	HostSetIDSet	ホストサブセットの ID
rIDs	[O]	HostSearchIDSet	ホスト検索の ID
hide	[O]	ブール型	ホストセットを非表示にするかどうか

表 **7–29** hdb.hs.mod コマンドの引数と結果　*(続き)*

引数/結果	構文	説明
result	HostSet	変更後のホストセット

hdb.ht: ホストタイプの管理

概要

`hdb.ht` コマンドは、ホストタイプを管理します。

表 **7–30** hdb.ht コマンドの概要

コマンド	説明
hdb.ht.add	新しいホストタイプを追加する
hdb.ht.del	ホストタイプを削除する
hdb.ht.la	すべてのホストタイプを一覧表示する
hdb.ht.lo	ホストタイプに関する情報を検出する
hdb.ht.mod	既存のホストタイプを変更する

hdb.ht.add

このコマンドは、新しいホストタイプを追加し、このホストタイプに名前を割り当て、このホストタイプの属性を定義します。

表 **7–31** hdb.ht.add コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
name	[R]	文字列	ホストタイプの名前
desc	[O]	文字列	ホストタイプの説明
attr	[R]	HostTypeVarList	ホストタイプの属性
hide	[O]	ブール型	ホストタイプを非表示にするかどうか。デフォルトは false

表 **7–31** hdb.ht.add コマンドの引数と結果　*(続き)*

引数/結果	構文	説明
result	HostType	新しいホストタイプ

hdb.ht.del

このコマンドは、ホストタイプを削除します。

表 **7–32** hdb.ht.del コマンドの引数と結果

引数		構文	説明
ID	[R]	HostTypeID	ホストタイプ ID

hdb.ht.la

このコマンドは、定義済みのすべてのホストタイプ (デフォルトのホストタイプ `crhost` を含む) を一覧表示します。

表 **7–33** hdb.ht.la コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
sh	[O]	ブール型	非表示のホストタイプを表示するかどうか。デフォルトは false
result		HostTypeArray	ホストタイプ

hdb.ht.lo

このコマンドは、ホストタイプを検出します。

表 **7–34** hdb.ht.lo コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
ID	[R]	HostTypeID	ホストタイプ ID
result		HostType	ホストタイプ

hdb.ht.mod

このコマンドは、既存のホストタイプを変更します。省略された引数の値は変更されません。

表 **7–35** hdb.ht.mod コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
ID	[R]	HostTypeID	ホストタイプ ID
name	[O]	文字列	ホストタイプの名前
desc	[O]	文字列	ホストタイプの説明
attr	[O]	HostTypeVarList	ホストタイプの属性
hide	[O]	ブール型	ホストタイプを非表示にするかどうか
result		HostType	変更後のホストタイプ

第 8 章

net: ネットワーク操作を実行する CLI コマンド

この章では、ネットワーク操作の実行に必要なコマンドについて説明します。

net コマンドの概要

net コマンドは、Sun N1 Service Provisioning System ソフトウェアアプリケーションに関係のあるネットワークタスクを実行します。

表 **8–1** net コマンドの概要

コマンド	説明
net.gencfg	Sun N1 Service Provisioning System ソフトウェアアプリケーション向けの転送構成ファイルを生成する
net.ping	TCP/IP ping コマンドを実行して、リモートエージェントやローカルディストリビュータとの接続をチェックする
net.traceroute	IP traceroute ユーティリティを使って、リモートエージェントやローカルディストリビュータへの経路を検索する

注 – net コマンドには、ユーザーセッションは必要ありません。

net.gencfg

このコマンドは、アプリケーションの転送構成ファイルを生成します。

表 **8–2** net.gencfg コマンドの引数

引数		クラス	説明
appID	[R]	AppInstanceID	転送構成を生成する必要があるアプリケーションインスタンスのアプリケーションインスタンス ID

net.ping

このコマンドは、TCP/IP ping コマンドを実行して、リモートエージェントまたはローカルディストリビュータとの接続を確認します。

表 **8–3** net.ping コマンドの引数と結果

引数/結果		クラス	説明
D	[R]	CRAddress	[*DNS-host-name* | *ipAddress* : *port*] という書式で ping するリモートエージェントまたはローカルディストリビュータのアドレス
result		PingResult	ping コマンドが正常に実行されたことを示すメッセージ。コマンドの実行に失敗した場合はエラーの詳細

net.traceroute

このコマンドは、IP traceroute コマンドを使って、リモートエージェントまたはローカルディストリビュータへの経路を検索します。

表 **8–4** net.traceroute コマンドの引数と結果

引数/結果		クラス	説明
D	[R]	CRAddress	[*DNS-host-name* | *ipAddress* : *port*] という書式で経路を検索するリモートエージェントまたはローカルディストリビュータのアドレス

表 **8–4** `net.traceroute` コマンドの引数と結果　(続き)

引数/結果	クラス	説明
result	UITraceResult	`traceroute` コマンドが正常に実行されたことを示すメッセージ。コマンドの実行に失敗した場合はエラーの詳細

第 9 章

pdb: プランを管理する CLI コマンド

この章では、プランの管理に必要なコマンドについて説明します。

pdb コマンドの概要

pdb コマンドを使って、プランを管理することができます。プランは、コンポーネントやホストで実行される操作を指定します。

表 **9–1** pdb コマンドの概要

コマンド	説明
pdb.p.ci	新しいバージョンのプランをチェックインする
pdb.p.co	プランをチェックアウトする (プランを XML で出力する)
pdb.p.genplan	プランを生成し、XML で出力する
pdb.p.la	すべてのプランの最新バージョンを一覧表示する
pdb.p.lo	プランを表示する
pdb.p.del	実行プランを削除する
pdb.p.lv	指定されたプランのすべてのバージョンを一覧表示する
pdb.p.mv	プランを移動する、または名前を変更する

表 **9–1** pdb コマンドの概要　(続き)

コマンド	説明
pdb.p.sh	プランを表示する、または非表示 (隠す) にする
pdb.p.sc	プランにカテゴリを関連付ける

pdb.p.ci

XML から新しいバージョンのプランをチェックインする

表 **9–2** pdb.p.ci コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
path	[R]	InputStreamWrapper	XML 書式のプラン
major	[O]	ブール型	新しいメジャーバージョンとしてチェックインするかどうか。デフォルトは false
hidePrev	[O]	ブール型	古いプランを隠すかどうか。デフォルトは true
parents	[O]	ブール型	プランをチェックインするときに、存在しない親を作成するかどうか。デフォルト値は falseです。
result		ExecutionPlan	新しい実行プラン

pdb.p.co

このコマンドは、プランを XML 書式で stdout に出力します。

表 **9–3** pdp.p.co コマンドの引数

引数		構文	説明
plan	[R]	ExecutionPlan	実行プラン

pdb.p.genplan

このコマンドは、プランを生成し、XML として出力します。

表 **9–4** pdb.p.genplan コマンドの引数

引数		構文	説明
ID	[R]	ComponentID	プランを生成するコンポーネントの ID
pt	[R]	NamedBlockType[]	手続き型のリスト install、uninstall、および call
pn	[R]	StringArray	このプランで使用する手続き名のリスト

pdb.p.la

このコマンドは、すべてのプランの最新バージョンを一覧表示します。

表 **9–5** pdb.p.la コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
sh	[O]	ブール型	隠されているプランを表示するかどうか。デフォルトは false
cat	[O]	CategoryID	適用するカテゴリフィルタ。デフォルトは “all”
folderID	[O]	FolderID	親フォルダ ID。デフォルトはルートフォルダ (NM:/)
flatView	[O]	ブール型	結果をフラットビューで表示するかどうか。デフォルトは true
result		ExecutionPlanArray	実行プラン

pdb.p.lo

このコマンドは、実行プランを表示します。

表 **9–6** pdb.p.lo コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
ID	[R]	ExecutionPlanID	表示するプランの ID

表 **9–6** pdb.p.lo コマンドの引数と結果　*(続き)*

引数/結果	構文	説明
result	ExecutionPlan	実行プラン

pdb.p.del

このコマンドは、実行プランを削除します。

表 **9–7** pdb.p.del コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
ID	[R]	ExecutionPlanID	削除するプランの ID
all	[O]	ブール型	全バージョンのプランを削除するかどうか。デフォルトは false

pdb.p.lv

このコマンドは、指定されたプランの全バージョンを一覧表示します。

表 **9–8** pdb.p.lv コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
ID	[R]	ExecutionPlanID	実行プランの ID
result		ExecutionPlanArray	実行プラン

pdb.p.mv

このコマンドは、プランを移動するか、プランの名前を変更します。

表 **9–9** pdb.p.mv コマンドの引数

引数		構文	説明
ID	[R]	ExecutionPlanID	移動する、または名前を変更するプランの ID
fullname	[R]	文字列	プランの新しい完全名 (パス + 名前)

pdb.p.sh

このコマンドは、プランを隠したり 、表示したりします。

表 **9–10** pdb.p.sh コマンドの引数

引数		構文	説明
ID	[R]	ExecutionPlanID	隠す、または表示するプランの ID
hide	[R]	ブール型	プランを非表示に設定するかどうか
all	[O]	ブール型	全バージョンのプランを変更するかどうか。デフォルトは false

pdb.p.sc

このコマンドは、プランにカテゴリセットを関連付けます。

表 **9–11** pdb.p.sc コマンドの引数

引数		構文	説明
ID	[R]	ExecutionPlanID	カテゴリの割り当て先のプランの ID
catIDs	[R]	CategoryIDSet	このプランに関連付けるカテゴリの ID
all	[O]	ブール型	プランの全バージョンのカテゴリを更新するかどうか。デフォルトは false

第 10 章

pe: プランを実行する CLI コマンド

この章では、プランの実行に必要なコマンドについて説明します。

pe コマンドの概要

pe コマンドは、プランの実行、停止、および監視のためのツールを提供します。

表 10–1 pe コマンドの概要

コマンド	説明
pe.h.prep	ホストのセットを準備する
pe.p.en	<execNative> または <execJava> 手順の出力を表示する
pe.p.la	実行中のプランと完了したプランを一覧表示する
pe.p.lo	実行中のプランや完了したプランの情報を一覧表示する
pe.p.del	完了したプランの実行履歴を削除する
pe.p.lp	プランのサブプランとターゲットを一覧表示する
pe.p.run	プランを実行する
pe.p.stop	現在実行中のプランを停止する
pe.pi.lo	プランの実行に使用するパラメータを一覧表示する

pe.h.prep

このコマンドは、ホストのセットを準備します。

表 **10–2** pe.h.prep コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
tar	[R]	HostIDSet	準備するホスト ID をコンマで区切ったリスト
result		TaskID	準備プラン実行 ID

pe.p.en

このコマンドは、<execNative> または <execJava> 手順の出力を表示します。

表 **10–3** pe.p.en コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
ID	[R]	StepID	表示するプラン内の手順。pe.p.lo コマンドの出力から収集できる
output	[O]	“so” または “se”	stdout または stderr だけを表示する。デフォルト: stdout だけを表示する
result		UIExecNativeOutput	手順の出力

pe.p.la

このコマンドは、実行中のプランと完了したプランを一覧表示します。

表 **10–4** pe.p.la コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
max	[O]	整数	一覧表示するプランの最大数。実行中のプランの数が指定された数より多い場合は無視される

表 **10–4** pe.p.la コマンドの引数と結果　*(続き)*

引数/結果		構文	説明
plan	[O]	文字列	結果をこの名前のプランに限定
result		RunningPlan-BeanArray	実行中のプラン全部と完了したプランの一部

pe.p.lo

このコマンドは、実行中または実行が完了したプランのステータスを報告し、各手順の StepID を表示します。

表 **10–5** pe.p.lo コマンドの引数

引数		構文	説明
ID	[R]	TaskID	表示するプラン実行の ID
old	[O]	ブール型	古いメッセージを表示するかどうか。デフォルトは false
new	[O]	ブール型	新しいメッセージをポーリングするかどうか。デフォルトは true

pe.p.del

このコマンドは、完了したプランの実行履歴を削除します。

表 **10–6** pe.p.del コマンドの引数

引数		構文	説明
ID	[R]	TaskID	削除するプラン実行の ID

pe.p.lp

このコマンドは、プランのサブプランとターゲットを一覧表示します。指定されたプランがまず表示されます。

表 **10–7** `pe.p.lp` コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
`ID`	[R]	ExecutionPlanID	実行プランの ID
result		SubplanPrompt-Array	サブプランとターゲットの配列

pe.p.run

このコマンドは、プランを実行します。プランプロンプト変数がある場合は、これにより、ユーザーに応答が求められます。

CLI を通して複合プランを実行するときは、サブプランごとに、一連のターゲット、コンポーネントのバージョン、および変数セットを指定する必要があります。構文の詳しい説明については、付録 A を参照してください。

表 **10–8** `pe.p.run` コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
PID	[R]	ExecutionPlanID	実行する実行プランの ID
tar	[R]	HostIDArrayArray	サブプランプロンプトによってプランとその各サブプランが実行されるそれぞれのホストまたはホストセット

表 **10–8** pe.p.run コマンドの引数と結果　*(続き)*

引数/結果		構文	説明
comp	[O/R]	StringArrayArray	プランおよびサブプランの一部としてインストールするコンポーネントバージョン。バージョンは、サブプランプロンプト内のコンポーネントセレクタの順に並べられる。参照されるコンポーネントは必ずこのリストに含まれていなければならない。 コンポーネントのバージョン番号を使用するか、デフォルトの場合は「+」、推奨の場合は「#」、最新の場合は「-」を使用する。コンポーネントバージョンがない場合は指定しない
vs	[O/R]	StringArrayArray	選択されたコンポーネントバージョンで使用される変数設定 変数設定名か「+」(デフォルト) を使用する。変数設定がない場合は指定しない
po	[O]	ブール型	プリフライトを実行する場合にかぎり true
pdp	[O]	ブール型	詳細プリフライトを実行する場合は true。デフォルトは false
hr1	[O]	整数	同時に実行されるホスト数の上限。デフォルトはサーバー構成ファイルで設定される
pto	[R]	TimeInterval	プランの最大実行時間
nto	[R]	TimeInterval	ネイティブ呼び出しの最大実行時間

表 **10–8** pe.p.run コマンドの引数と結果　*(続き)*

引数/結果		構文	説明
f	[O]	ReaderWrapper	プラン変数は、ファイルまたは標準入力によって渡される。デフォルトでは標準入力が使用される
result		TaskID	プラン実行の ID

例 **10–1** 単一のサブプラン、コンポーネント、変数セットによるプランの実行

この例は、1 つのホストで簡単なプランを実行する例です。

プラン名
　/test/test1

プランのターゲットホスト
　masterserver

変数セット名
　nors

プランの実行に使う時間の最大
　30 分

ネーティブ呼び出しの実行に使う時間の最大
　10 分

使用するコンポーネントバージョン
　デフォルト

コンポーネントと変数セットが 1 つだけの場合は、値を引用符で囲む必要はありません。

```
./cr_cli -cmd pe.p.run -PID NM:/test/test1 -tar H:NM:masterserver  \
-vs nors -pto 30 -nto 10 -comp + -u admin -p admin
```

例 **10–2** 複数のサブプラン、コンポーネント、変数セットによるプランの実行

この例は、2 つのサブプランを持つ複合プランの例です。

subplan1
　install compA
　install compB
subplan2
　install compC
　install compD

各サブプランは別々のホストで実行され、参照する各コンポーネントに対して別々の変数セットを使用します。

プラン名
　/test/test2

例 **10–2** 複数のサブプラン、コンポーネント、変数セットによるプランの実行　(続き)

プランのターゲットホスト
　masterserver and host2

サブプラン 1 に対する変数セット名
　nors and tmc

サブプラン 2 に対する変数セット名
　varset1 and varset2

プランの実行に使う時間の最大
　30 分

ネーティブ呼び出しの実行に使う時間の最大
　10 分

使用するコンポーネントバージョン
　デフォルト

```
./cr_cli -cmd pe.p.run -PID NM:/test/test2  \
-tar "H:NM:masterserver;H:NM:host2" -vs "nors,tmc;varset1,varset2" \
-pto 30 -nto 10 -comp "+,+;+,+" -u admin -p admin
```

pe.p.stop

このコマンドは、実行中のプランを停止します。

表 **10–9** pe.p.stop コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
ID	[R]	TaskID	実行を停止するプランの ID
result		ブール型	プランが正常に停止された場合は true

pe.pi.lo

このコマンドは、プランの実行に使用するパラメータを一覧表示します。

表 **10–10** pe.pi.lo コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
ID	[R]	TaskID	プラン実行の ID

表 **10–10** `pe.pi.lo` コマンドの引数と結果　*(続き)*

引数/結果	構文	説明
result	TaskInfo	プラン実行パラメータ

第 11 章

plg: プラグインの CLI コマンド

この章では、プラグインを管理するコマンドについて説明します。

plg コマンドの概要

以下の表に、プラグイン管理用の CLI コマンドの概要を示します。

表 11–1 plg コマンドの概要

コマンド	説明
plg.p.add	ファイルシステムから新規または既存のプラグインをインポートする
plg.p.del	プラグインを削除する
plg.p.la	すべてのプラグインを一覧表示する
plg.p.lo	プラグインの詳細を一覧表示する
plg.p.mod	プラグインを変更する

plg.p.add

このコマンドは、ファイルシステムから新規または既存のプラグインをインポートします。Ctrl-C キーを押すとコマンドは終了しますが、進行中のインポートには影響はありません。

表 **11–2** plg.p.add コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
path	[R]	InputStreamWrapper	プラグイン JAR ファイル
result		PluginID	プラグイン ID

plg.p.del

このコマンドは、プラグインを削除します。

表 **11–3** plg.p.del コマンドの引数

引数		構文	説明
ID	[R]	PluginID	プラグイン ID

plg.p.la

このコマンドは、すべてのプラグインを一覧表示します。

表 **11–4** plg.p.la コマンドの結果

結果	構文	説明
result	PluginArray	プラグインの配列

plg.p.lo

このコマンドは、単一のプラグインに関する詳細を一覧表示します。

表 **11–5** plg.p.lo コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
ID	[R]	PluginID	プラグイン ID
result		プラグイン	プラグイン

plg.p.mod

このコマンドは、プラグインを変更します。引数を省略した場合、現在の値が保持されます。

表 **11–6** `plg.p.mod` コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
ID	[R]	PluginID	プラグイン ID
order	[O]	文字列	プラグインメニューの順番
result		プラグイン	プラグイン

第 12 章

rule: 通知のための CLI コマンド

この章では、イベント通知の管理に必要なコマンドについて説明します。

rule コマンドの概要

rule コマンドでは、Sun N1 Service Provisioning System ソフトウェアで特定の種類のイベントが発生したときに送信される電子メール通知を構成することができます。

以下の表に、通知の規則を管理する CLI コマンドの概要を示します。

表 12–1 rule コマンドの概要

コマンド	説明
rule.add	通知規則を追加する
rule.del	通知規則を削除する
rule.la	すべての通知規則を一覧表示する
rule.lo	特定の規則を検出する
rule.mod	既存の規則を変更する

rule.add

このコマンドは、電子メール通知の送信に関する新しい規則を追加します。

表 **12–2** rule.add コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
n	[R]	文字列	規則名
D	[O]	文字列	規則の説明
tf	[O]	CriteriaShorthand	規則イベントタイプフィルタ
mf	[O]	文字列	規則メッセージフィルタ
haf	[O]	HostIDArray	規則ホストフィルタ
hsf	[O]	HostSetID	規則ホストセットフィルタ
sf	[O]	文字列	規則重要度フィルタ。有効な値は、`INFO`、`WARNING`、`ERROR`。また、重要度の末尾には、この重要度以上であることを表す「`+`」が付けられている場合がある。たとえば、`WARNING+` は `WARNING` または `ERROR` のイベントを表している
ea	[R]	文字列	通知先の電子メールアドレス
result		RuleMetaData	新しい規則

以下の表に、-tf 引数で渡されるキーワードを一覧します。このキーワードを使って、規則を適用するイベントのタイプを指定できます。

表 **12–3** -tf 引数の CriteriaShorthand

条件の短縮形	イベント
any	任意のイベント
planStart	プランの開始
planEndAbnormal	プランの異常終了
planEndNormal	プランの正常な終了
cmpStart	比較の開始

表 12–3 -tf 引数の CriteriaShorthand　（続き）

条件の短縮形	イベント
cmpEndAbnormal	比較の異常終了
cmpEndNormal	比較の正常な終了
system	任意のシステムイベント
admin	任意の管理イベント
custom	任意のカスタムイベント

rule.del

このコマンドは、指定された規則を削除します。

表 12–4 rule.del コマンドの引数

引数		構文	説明
ID	[R]	RuleID	規則 ID

rule.la

このコマンドは、Sun N1 Service Provisioning System ソフトウェアに定義されているすべての規則を一覧表示します。

表 12–5 rule.la コマンドの結果

結果	構文	説明
result	RuleMetaDataArray	規則

rule.lo

このコマンドは、ID で指定された規則を検出します。

表 12–6 rule.lo コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
ID	[R]	RuleID	規則 ID
result		RuleMetaData	規則

rule.mod

このコマンドは、既存の規則の指定済みの属性を変更します。省略された引数の値は変更されません。

表 **12–7** rule.mod コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
ID	[R]	RuleID	規則 ID
n	[O]	文字列	規則名
D	[O]	文字列	規則の説明
tf	[O]	CriteriaShorthand	規則イベントタイプフィルタ
mf	[O]	文字列	規則メッセージフィルタ
haf	[O]	HostIDArray	規則ホストフィルタ
hsf	[O]	HostSetID	規則ホストセットフィルタ
sf	[O]	文字列	規則重要度フィルタ
ea	[O]	文字列	通知先の電子メールアドレス
result		RuleMetaData	変更後の規則

第 13 章

udb: ユーザーとグループを管理する CLI コマンド

この章では、ユーザーとグループの管理に必要なコマンドについて説明します。

udb コマンドの概要

以下に、ユーザーとグループの管理のための CLI コマンドセットを示します。

表 13–1 ユーザーアカウント、グループ、ログインのコマンドセット

CLI 接頭辞	コマンドセットの説明
udb.g	ユーザーグループを管理するコマンド
udb.login udb.ログアウト udb.whoami	ログインセッションを管理するコマンド
udb.p	アクセス許可を管理するコマンド
udb.u	ユーザーアカウントを管理するコマンド
udb.sv	セッション変数を管理するコマンド
udb.l	すべてのログイン構成を一覧表示するコマンド

この章では、コマンドセットごとに、すべてのコマンドについて説明します。

udb.g: ユーザーグループの管理

udb.g コマンドでは、ユーザーグループの定義、変更、削除、一覧表示を行うことができます。

表 **13–2** udb.g コマンドの概要

コマンド名	説明
udb.g.add	新しいユーザーグループを追加する
udb.g.del	ユーザーグループを削除する
udb.g.la	すべてのユーザーグループを一覧表示する
udb.g.lo	指定されたユーザーグループに関する情報を検出する
udb.g.lp	指定されたグループに付与されたアクセス許可を一覧表示する
udb.g.lu	指定されたグループのメンバーユーザーを一覧表示する
udb.g.mod	既存のユーザーグループを変更する

udb.g.add

このコマンドは、新しいグループを追加します。

表 **13–3** udb.g.add コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
n	[R]	文字列	新しいグループ名
D	[O]	文字列	新しいグループの説明
hostWrite	[O]	ブール型	新しいグループがホストへの書き込み権を持っているかどうか。デフォルトは false
notRuleWrite	[O]	ブール型	新しいグループが通知規則への書き込み権を持っているかどうか。デフォルトは false

表 **13–3** udb.g.add コマンドの引数と結果　*(続き)*

引数/結果		構文	説明
adminWrite	[O]	ブール型	新しいグループが「admin: users and groups;」への書き込み許可を持っているかどうか。デフォルトは false
diffWrite	[O]	ブール型	新しいグループが比較への書き込み許可を持っているかどうか。デフォルトは false
diffRun	[O]	文字列	新しいグループが比較の実行許可を持っているホストセットのホストセット ID。空の値を指定した場合、すべてのホストセットの実行許可が削除される。すべてのホストセットにこのアクセス許可を設定するには、クライアントで「allhosts」という標識値を使用する
ua	[O]	UserArray	新しいグループのユーザー
pga	[O]	GroupArray	新しいグループの親グループ
cga	[O]	GroupArray	新しいグループの子グループ
result		グループ	新しいグループ

udb.g.del

このコマンドは、指定されたグループを削除します。

注 – グループを削除しても、グループ内のユーザーアカウントは削除されません。ユーザーアカウントが分類されていたグループが削除されるだけです。

表 **13–4** udb.g.del コマンドの引数

引数		構文	説明
ID	[R]	GroupID	グループ ID

udb.g.la

このコマンドは、Sun N1 Service Provisioning System ソフトウェアに定義されているすべてのグループを一覧表示します。

表 **13–5** udb.g.la コマンドの結果

結果	構文	説明
result	GroupArray	グループ

udb.g.lo

このコマンドは、指定されたグループを検出します。

表 **13–6** udb.g.lo コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
ID	[R]	GroupID	グループ ID
result		グループ	グループ

udb.g.lp

このコマンドは、グループに付与されたアクセス許可を一覧表示します。

表 **13–7** udb.g.lp コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
ID	[R]	GroupID	グループ ID
result		PermissionArray	アクセス許可

udb.g.lu

このコマンドは、指定されたグループのメンバーを一覧表示します。

表 **13–8** udb.g.lu コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
ID	[R]	GroupID	グループ ID
result		UserArray	ユーザー

udb.g.mod

このコマンドは、既存のグループを変更します。省略された引数の値は変更されません。

表 **13–9** udb.g.mod コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
ID	[R]	GroupID	グループ ID
n	[O]	文字列	新しいグループ名
D	[O]	文字列	新しいグループの説明
hostWrite	[O]	ブール型	新しいグループがホストへの書き込み許可を持っているかどうか
notRuleWrite	[O]	ブール型	新しいグループが通知規則への書き込み許可を持っているかどうか
adminWrite	[O]	ブール型	新しいグループが「admin: users and groups」への書き込み許可を持っているかどうか
diffWrite	[O]	ブール型	新しいグループが比較への書き込み許可を持っているかどうか

表 **13–9** udb.g.mod コマンドの引数と結果　(続き)

引数/結果		構文	説明
diffRun	[O]	文字列	新しいグループが比較の実行許可を持っているホストセットのホストセット ID。空の値を指定した場合、すべてのホストセットの実行許可が削除される。すべてのホストセットにこのアクセス許可を設定するには、クライアントで「allhosts」という標識値を使用する
ua	[O]	UserArray	新しいグループのユーザー
pga	[O]	GroupArray	新しいグループの親グループ
cga	[O]	GroupArray	新しいグループの子グループ
result		グループ	変更後のグループ

udb.u: ユーザーアカウントの管理

`udb.u` コマンドでは、個々のユーザーアカウントを管理できます。

表 **13–10** udb.u コマンドの概要

コマンド名	説明
udb.u.add	新しいユーザーアカウントを追加する
udb.u.cp	指定されたユーザーのパスワードを変更する
udb.u.la	すべてのユーザーアカウントを一覧表示する
udb.u.lo	指定されたユーザーに関する情報を検出する
udb.u.lp	指定されたユーザーに付与されたアクセス許可を一覧表示する
udb.u.mod	指定されたユーザーアカウントを変更する

udb.u.add

このコマンドは、新しいユーザーを追加します。

表 **13–11** udb.u.add コマンドの引数と結果

引数		構文	説明
nu	[R]	文字列	新しいユーザーのユーザー名
np	[O/R]	文字列	新しいユーザーのプレインテキストパスワード。符号化されたパスワードが利用できないか、指定されていない場合は必須
nep	[O/R]	文字列	新しいユーザーの符号化パスワード。プレインテキストパスワードが利用できないか、指定されていない場合は必須
ng	[O]	GroupArray	新しいユーザーのユーザーグループ
hide	[O]	ブール型	ユーザーを非表示にするかどうか。デフォルトは false
loginConfig	[O/R]	文字列	このユーザー用のログイン構成。デフォルトは、可能な場合「internal」。それ以外の場合は必須
result		ユーザー	新しいユーザー

udb.u.cp

このコマンドは、指定されたユーザーのパスワードを変更します。

表 **13–12** udb.u.cp コマンドの引数

引数		構文	説明
un	[R]	文字列	変更が必要なパスワードを所有するユーザーのユーザー名
op	[O/R]	文字列	旧プレインテキストパスワード
oep	[O/R]	文字列	旧符号化パスワード
np	[O/R]	文字列	新プレインテキストパスワード
nep	[O/R]	文字列	新符号化パスワード

udb.u.la

このコマンドは、すべてのユーザーアカウントを一覧表示します。

表 **13–13** udb.u.la コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
sh	[O]	ブール型	非表示のユーザーを表示するかどうか。デフォルトは false
result		UserArray	ユーザー

udb.u.lo

`udb.u.lo` コマンドは、指定されたユーザーを検出します。

表 **13–14** udb.u.lo コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
ID	[R]	UserID	ユーザー ID
result		ユーザー	ユーザー

udb.u.lp

このコマンドは、ユーザーに付与されたアクセス許可を一覧表示します。

表 **13–15** udb.u.lp コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
ID	[R]	UserID	ユーザー ID
result		PermissionArray	アクセス許可

udb.u.mod

このコマンドは、既存のユーザーを変更します。省略した場合、現在の値が保持されます。

表 **13–16** udb.u.mod コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
ID	[R]	UserID	ユーザー ID
np	[O]	文字列	そのユーザーの新プレインテキストパスワード。符号化パスワードと併用することはできない
nep	[O]	文字列	そのユーザーの新符号化パスワード。プレインテキストパスワードと併用することはできない
ng	[O]	GroupArray	ユーザーの新しいユーザーグループ
hide	[O]	ブール型	ユーザーを非表示に設定するかどうか
active	[O]	ブール型	ユーザーをアクティブに設定するかどうか
forceFlush	[O]	ブール型	true の場合、必要に応じてユーザーのセッション変数がフラッシュされる。false の場合、変更は中止される。デフォルトは false
loginConfig	[O]	文字列	ユーザーの新しいログイン構成
result		ユーザー	変更後のユーザー

udb.sv: セッション変数の管理

udb.sv コマンドでは、セッション変数を管理できます。

表 **13–17** udb.sv コマンドの概要

コマンド名	説明
udb.sv.add	新しいセッション変数を追加する
udb.sv.del	セッション変数を削除する
udb.sv.fl	ユーザーのセッション変数をすべてフラッシュする
udb.sv.la	すべてのセッション変数を一覧表示する
udb.sv.lo	セッション変数に関する情報を検出する
udb.sv.mod	指定されたセッション値を変更する
udb.sv.re	ユーザーのセッション変数をすべて暗号化しなおす

udb.sv.add

このコマンドは、新しいセッション変数を追加します。変数を持続させる場合は、-p パラメータを使ってパスワードを設定する必要があります。

注 – HTML ユーザーインタフェースにログインし、CLI を使用してセッション変数を追加する場合、変数の一覧を再表示すると、セッション変数名が値なしで表示されます。新しいセッション変数の値を表示するには、HTML ユーザーインタフェースからいったんログアウトして、再度ログインします。

表 **13–18** udb.sv.add コマンドの引数と結果

引数		構文	説明
name	[R]	文字列	新しいセッション変数名
secure	[O]	ブール型	値を表示するかどうか。表示しない場合は true。デフォルトは false

表 **13–18** udb.sv.add コマンドの引数と結果　*(続き)*

引数		構文	説明
desc	[O]	文字列	新しいセッション変数値の説明
value	[R]	文字列	このユーザーの新しいセッション変数値。 この変数の値が空文字列の場合は、次のように入力する- `value ""`
result		SessionVariable	新しいセッション変数

udb.sv.del

このコマンドは、セッション変数を削除します。

表 **13–19** udb.sv.del コマンドの引数

引数		構文	説明
name	[R]	文字列	削除するセッション変数の名前

udb.sv.fl

このコマンドは、ユーザーのセッション変数をすべてフラッシュします。

表 **13–20** udb.sv.fl コマンドの引数

引数		構文	説明
u	[R]	文字列	ユーザー名
p	[O/R]	文字列	そのユーザーのプレインテキストパスワード
ep	[O/R]	文字列	このユーザーの符号化パスワード

udb.sv.la

このコマンドは、すべてのセッション変数を一覧表示します。

表 **13–21** udb.sv.la コマンドの引数と結果

引数/結果	構文	説明
result	SessionVariableSet	このユーザーが使用できる変数

udb.sv.lo

このコマンドは、指定されたセッション変数を検出します。

表 **13–22** udb.sv.lo コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
name	[R]	文字列	表示するセッション変数の名前
result		SessionVariable	セッション変数

udb.sv.mod

このコマンドは、セッション変数を変更します。変数を持続させる場合は、-p パラメータを使ってパスワードを設定する必要があります。

表 **13–23** udb.sv.mod コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
name	[R]	文字列	変更するセッション変数の名前
secure	[O]	文字列	値を表示するかどうか。表示しない場合は true。デフォルトは false
desc	[O]	文字列	新しいセッション変数の説明
value	[O]	文字列	このユーザーの新しいセッション変数値
result		SessionVariable	新しいセッション変数

udb.sv.re

このコマンドは、ユーザーのセッション変数をすべて暗号化しなおします。

表 **13–24** udb.sv.re コマンドの引数

引数		構文	説明
u	[R]	文字列	ユーザー名
p	[O/R]	文字列	そのユーザーのプレインテキストパスワード
ep	[O/R]	文字列	そのユーザーの符号化パスワード
op	[O/R]	文字列	これらの変数を暗号化するために使用する旧プレインテキストパスワード
oep	[O/R]	文字列	これらの変数を暗号化するために使用する旧符号化パスワード

認証コマンド

udb.login

ユーザーログインに続いて、認証用の SessionID を返します。セッション ID をファイルに送信するためには、引数 `-o` と `-of` をユーザー名やパスワードよりも前に指定する必要があります。

表 **13–25** udb.login コマンドの結果

引数		構文	説明
o	[O]	文字列	フォーマッタの名前
の	[O]	文字列	出力ファイルの名前
u	[R]	文字列	ユーザー名
p	[O/R]	文字列	プレインテキストユーザーパスワード。符号化されたパスワードが利用できないか、指定されていない場合は必須

表 **13–25** udb.login コマンドの結果　*(続き)*

引数		構文	説明
ep	[O/R]	文字列	符号化されたユーザーパスワード。プレインテキストパスワードが利用できないか、指定されていない場合は必須
result		SessionID	セッション ID

例 **13–1** セッション ID をファイルに送信する例

この例は、再利用のためにセッション ID を保存している例です。

フォーマッタの名前　`serialized`

出力ファイルの名前　`sessionid`

```
# cr_cli -cmd udb.login -o serialized -of sessionid -u admin -p admin
```

udb.logout

このコマンドは、実行ユーザーをログアウトします。

udb.whoami

このコマンドは、現在のセッションの所有者を帰します。

表 **13–26** udb.whoami コマンドの結果

結果	構文	説明
result	UserID	現在のユーザー ID

udb.p: アクセス許可を管理するためのコマンド

`udb.p` コマンドでは、Sun N1 Service Provisioning System ソフトウェアで設定されたアクセス許可に関する情報を表示することができます。

表 **13–27** udb.p コマンドの概要

コマンド	説明
udb.p.la	すべてのアクセス許可を一覧表示する
udb.p.lo	指定されたアクセス許可を検出する

udb.p.la

このコマンドは、すべてのアクセス許可を一覧表示します。

表 **13–28** udb.p.la コマンドの結果

結果	構文	説明
result	PermissionArray	アクセス許可

udb.p.lo

このコマンドは、指定されたアクセス許可を検出します。

表 **13–29** udb.p.lo コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
ID	[R]	PermissionID	アクセス許可の ID
result		Permission	アクセス許可

udb.l: ログイン構成の管理

udb.l.la

このコマンドは、すべてのログイン構成を一覧表示します。

表 **13–30** udb.l.la コマンドの結果

引数	構文	説明
result	LoginConfiguration-Array	ログイン構成の一覧

第 14 章

util: その他の CLI コマンド

この章では、マスターサーバーアプリケーションのバージョンの表示、オブジェクトの書式設定、ファイルの Perl 型変換や XSLT 変換を行うその他のコマンドについて説明します。

util コマンドの概要

以下の表に、この章で説明する CLI コマンドの概要を示します。

表 14–1 util コマンドの概要

コマンド	説明
util.msv	マスターサーバーアプリケーションのバージョンを表示する
util.reformat	オブジェクトの書式を設定する
util.xfm	直列化オブジェクト表現を人間が読める形式に変換する

util.msv

このコマンドは、マスターサーバーアプリケーションのバージョンを表示します。

表 **14–2** `util.msv` コマンドの引数と結果

結果	構文	説明
result	文字列	マスターサーバーアプリケーションのバージョン

util.reformat

このコマンドは、オブジェクトの書式を設定します。

以下に、特定のコマンドで使用可能なコマンド固有の出力書式を一覧表示します。

`cdb.detail` コンポーネントの詳細テキスト出力

`cmp.detail` 比較の詳細テキスト出力

`fdb.detail` フォルダの詳細テキスト出力

`hdb.detail` ホストデータの詳細テキスト出力

`net.detail` ネットワークデータの詳細テキスト出力

`net.summary` ネットワークデータの簡易出力

`pdb.detail` プランの詳細テキスト出力

`pe.detail` プラン実行による詳細テキスト出力

`plg.detail` プラグインの詳細テキスト出力

`rule.detail` 通知規則の詳細テキスト出力

`udb.deep` ユーザーとユーザーグループについて説明する非常に詳細なテキスト出力

`udb.detail` ユーザーとユーザーグループについて説明する詳細テキスト出力

`udb.summary` ユーザーとユーザーグループについて説明する簡易テキスト出力

表 **14–3** `util.reformat` コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
self	[R]	Object	引数と結果
result		Object	変更されない変数

util.xfm

このコマンドは、直列化オブジェクト表現を人間が読める形式に変換するために使用します。

表 **14–4** `util.xfm` コマンドの引数

引数		構文	説明
in	[R]	ReaderWrapper	変換する入力ストリーム
type	[R]	TransformType	入力ストリームに適用する変換の種類
xfm	[R]	ReaderWrapper	変換後のストリーム

例 **14–1** `util.xfm` コマンドの使用

この例では、`PERL` 型変換を行います。`PERL` 型変換は、`perl.xml` ファイル内の `in.txt` ファイルで指定されたテキストに記述されています。結果は、標準出力に書き出されます。`-of` 引数を使って、標準出力をファイルにリダイレクトすることもできます。

```
cr_cli -cmd util.xfm -in in.txt -type PERL -xfm perl.xml -u terry -p 123xyz
```

入力ストリームのクラスは `ReaderWrapper` なので、各ストリームのソースを指定する際、`String2ReaderWrapper` コンバータでサポートされている構文を使用できます。たとえば、`in.txt` ファイルからではなく標準入力から入力を読み込むには、`-in in.txt` の代わりに `-in -` を使用します。

付録 A

入力タイプ

以下の表では、CLI コマンドに渡される各種入力引数の構文について説明します。

「はじめに」の表記上の規則には記載されていませんが、角括弧 (`[]`) で囲まれたテキストはオプションを表します。

表 **A–1** CLI の入力タイプの構文

入力タイプ	構文
`AppInstance`、 `AppInstanceID`	次のいずれか ■ `NM:`*host-name*`:RA` ■ `NM:`*host-name*`:LD` ■ `NM:`*host-name*`:MS` ■ `[ID:]`*ID*
`AppTypeCriteria`	以下の値をコンマまたはパイプで区切った形式のリスト ■ `RA` ■ `LD` ■ `MS` または `empty`

表 **A–1** CLI の入力タイプの構文　(続き)

入力タイプ	構文
`AttributeCriteriaList`	*attribute-criteria* [`;`*attribute-criteria*] `*` *attribute-criteria* は次のいずれか ■ *attribute-name*`-contains-`*glob-pattern-value* ■ *attribute-name*`-equals-`*glob-pattern-value* *attribute-name* は次のいずれかの値 `sys.hostName`、`sys.description`、`sys.hostType`、`sys.ipAddress`、`sys.parent`、`sys.OS`、`sys.OSVersion`、`sys.OSArch`、または *user-defined-name* *glob-pattern-value* はワイルドカード文字 `*` と `.` を含む文字列
`Boolean`	true、false はそれぞれ次のように表される。アルファベットの大文字と小文字は区別される ■ `true`、`yes`、`t`、または `+` ■ `false`、`no`、`f`、または `-`
`Category`、 `CategoryID`、 `CategoryIDSet`	次のいずれか ■ `NM:`*category-name* ■ `[ID:]`*ID*
`CompCheckInID`	`[ID:]`*ID*
`ComponentTypeRefID`	次のいずれか ■ `NM:`*component-type-ref-name* ■ `[ID:]`*ID*
`Component`、 `ComponentID`	次のいずれか ■ `NM:`*component-name* [`:`*version*] *version* の指定を省略した場合、最新バージョンが使用される ■ `[ID:]`*ID*
`ComponentVariableSettings`、 `ComponentVariableSettingsID`	次のいずれか ■ `NM:`*component-name* [`:`*version*] `:`*var-settings-name* *version* の指定を省略した場合、最新バージョンが使用される ■ `[ID:]`*ID*
`ConnectionType`	次のいずれか ■ `raw` ■ `ssh` ■ `ssl`

表 **A–1** CLI の入力タイプの構文　(続き)

入力タイプ	構文
`CriteriaShorthand`	次のいずれか ■ 任意 ■ `planStart` ■ `planEndNormal` ■ `planEndAbnormal` ■ `diffStart` ■ `diffEndNormal` ■ `diffEndAbnormal` ■ `system` ■ `admin` ■ `custom`
`DifferenceSettings`、 `DifferenceSettingsID`	次のいずれか ■ `NM:`*diff-name* ■ `[ID:]`*ID*
`ExecutionPlan`、 `ExecutionPlanID`	次のいずれか ■ `NM:`*plan-name*`[:`*version*`]` *version* の指定を省略した場合、最新バージョンが使用される ■ `[ID:]`*ID*
`Folder`、 `FolderID`	次のいずれか ■ `NM:`*folder-name* ■ `[ID:]`*ID*
`Group`、 `GroupID`	次のいずれか ■ `NM:`*group-name* ■ `[ID:]`*ID*
`Hashtable`	*key*`[=`*value*`][;`*key*`[=`*value*`]]*` *key* はキーワード *value* は次のいずれか ■ *single-value* ■ `[`*single-value*`,`*single-value*`[,`*single-value*`]*]` 一番外側の角括弧は必須 例: ■ `color=red;emptykey` ■ `arraykey=[value1,value2]`
`Host`、 `HostID`	次のいずれか ■ `NM:`*host-name* ■ `[ID:]`*ID*

表 **A–1** CLI の入力タイプの構文　(続き)

入力タイプ	構文
`HostIDArrayArray`	*host-ID-array* [; *host-ID-array*] * *host-ID-array* は次のいずれか ■ *host-ID* [, *host-ID*] * ■ *host-set-ID* [, *host-set-ID*] * *host-ID* は `H:`*host-ID*、*host-set-ID* は `HS:`*host-set-ID* 例: ■ `H:NM:host1` ■ `HS:NM:hostSetFoo,H:NM:h1;H:NM:h2`
`HostIDSet`	*host-ID* [, *host-ID*] *
`HostSearch`、 `HostSearchID`	次のいずれか ■ `NM:`*host-search-name* ■ `[ID:]`*ID*
`HostSearchIDSet`	*host-search-ID* [, *host-search-ID*] *
`HostSet`、 `HostSetID`	次のいずれか ■ `NM:`*host-set-name* ■ `[ID:]`*ID*
`HostSetIDSet`	*host-set-ID* [, *host-set-ID*] *
`HostType`、 `HostTypeID`	次のいずれか ■ `NM:`*host-type-name* ■ `[ID:]`*ID*
`HostTypeVarList`	*key* [=*single-value*] [; *key* [=*single-value*]] *
`InputStreamWrapper`	次のいずれか ■ 標準入力の場合は - ■ *input-file-name*
`InstalledComponentRef`	*component-name* : *component-version* : *install-path*
`InstalledResourceRef`	*resource-ID* : *install-path*
`Level`	次のいずれか ■ `host` ■ `dir` ■ `file`
`NamedBlockType`	次のいずれか ■ `install` ■ `uninstall` ■ `call`

表 **A–1** CLI の入力タイプの構文　(続き)

入力タイプ	構文
`OutputStreamWrapper`	次のいずれか ■ `[+]`*filename* (+ は追加を意味する) ■ 標準出力の場合は `-` ■ 標準エラーの場合は `-:`
`Permission`、 `PermissionID`	次のいずれか ■ *permID* ■ `NM:`*permID* ■ `NM:userdb.read` ■ `NM:userdb.write` ■ `NM:host.read` ■ `NM:host.write` ■ `NM:hostType.read` ■ `NM:hostType.write` ■ `NM:rule.read` ■ `NM:rule.write` ■ `NM:diff.read` ■ `NM:diff.write` ■ `NM:diffrun:allhosts` ■ `NM:diffrun:`*host-set-name* ■ `NM:folder:`*folder-name*`:write` ■ `NM:folder:`*folder-name*`:checkin-current` ■ `NM:folder:`*folder-name*`:autorun` ■ `NM:folder:`*folder-name*`:execute:allhosts` ■ `NM:folder:`*folder-name*`:execute:`*host-set-name* ■ `NM:folder:`*folder-name*`:owner`
`PhysicalCriteria`	*phys-attribute*`[|`*phys-attribute*`]*` *phys-attribute* は `VIRT` か `PHYS` または `empty`
`Plugin`、 `PluginID`	次のいずれか ■ `NM:`*plugin-name* ■ `[ID:]`*ID*
`ReaderWrapper`	次のいずれか ■ 標準入力の場合は `-` ■ *input-file-name*
`RoxAddress`	次のいずれか ■ *IP-name*`:`*port-number* ■ *IP-address*`:`*port-number*

表 **A–1** CLI の入力タイプの構文　(続き)

入力タイプ	構文
`RuleID`、 `RuleMetaData`	次のいずれか ■ `NM:`*rule-name* ■ `[ID:]`*ID*
`Scope`	次のいずれか ■ `component` ■ `host` ■ `hostset`
`SeverityArray`	次のいずれか ■ `empty` ■ `INFO[+]`。`+` は “or greater” を意味する ■ `WARNING[+]` ■ `ERROR[+]`
`StringArray`	*string*`[,`*string*`]*` 各値をコンマ (,) で区切る。値が 2 つ以上ある場合は、すべての値を引用符 (") で囲む必要がある 例: ■ `val1` ■ `"appSet1, appset2"`
`StringArrayArray`	*string-array*`[;`*string-array*`]*` 各サブプランをセミコロン (;) で区切り、各値をコンマ (,) で区切る。値が 2 つ以上ある場合は、それらの値を引用符 (") で囲む必要がある 例: ■ `"+,+,-"` ■ `"+;+"` ■ `"val1,val2;+,val4"`
`Style`	次のいずれか ■ モデルとモデルの場合は `mm` ■ モデルとインストールの場合は `mi` ■ インストールとインストールの場合は `ii`
`SystemServiceRefID`	次のいずれか ■ `NM:`*system-service-ref-name* ■ `[ID:]`*ID*

表 **A–1** CLI の入力タイプの構文　(続き)

入力タイプ	構文
`TimeInterval`	次のいずれか ■ 時間間隔が不定の場合は `-` ■ `@`*Date* (現在から *Date* まで) *Date* の形式は *mm*`/`*dd*`/`*yyyy HH*`:`*MM* ■ `[#`*weeks*`w] [#`*days*`d] [#`*hours*`h] [#`*minutes*`m] [#`*seconds*`s] [#`*millisecs*`ms]` ■ `[#`*weeks*`w] [#`*days*`d] [#`*hours*`:]#`*minutes*`[.#`*seconds*`[.#`*milliseconds*`]]`
`User`、 `UserID`	次のいずれか ■ `NM:`*user-name* ■ `[ID:]`*ID*
`WriterWrapper`	次のいずれか ■ `[+]`*filename* (`+` は追加を意味する) ■ 標準出力の場合は `-` ■ 標準エラーの場合は `-:`